

# 市内遺跡 15

—令和 2 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

2022.1

茅野市教育委員会



# 市内遺跡 15

—令和 2 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

2022.1

茅野市教育委員会



## 序 文

茅野市は長野県南東部に位置する風光明媚な高原都市です。東に八ヶ岳連峰、西に赤石山脈から続く山脚、北に霧ヶ峰山塊を擁し、霧ヶ峰の南麓からは遠く富士山を望むことができます。

当市には特別史跡尖石遺跡、史跡上之段遺跡や駒形遺跡をはじめとする多くの縄文時代の遺跡、更には国宝土偶「縄文のビーナス」、「仮面の女神」を保有するなど、「縄文の里」として全国にその名を知られています。それらの縄文遺跡にかくれがちであった弥生時代から江戸時代の遺跡も、市街地周辺における近年の発掘調査の蓄積によって、各時代の生活の様相が明らかになりつつあります。

当市では市内各所で行われる各種開発事業と遺跡の保護・調整を図るために、国庫補助事業による試掘調査ならびに本調査等を進めてきました。その中で令和2年度に実施した28件の調査成果が本報告書にまとめられています。

報告する発掘調査は、いずれも遺跡の一部を対象に行われた小規模なものですが、このような調査を地道に繰り返し行うことで、遺跡の広がりやその性格が解き明かされていくものと期待されます。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力を賜りました地権者ならびに事業関係者の皆さま、調査に従事された作業員の皆さまに心からお礼を申し上げます。

令和4年1月

茅野市教育委員会  
教育長 山田利幸

## 例 言

- 1 本書は長野県茅野市が令和3年度に国宝重要文化財等保存整備費補助金を受け作成した、令和2年度の各種開発事業に伴う市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 本書に掲載した遺跡は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までに調査した遺跡である。
- 3 整理作業ならびに報告書作成は、令和2年5月2日から令和3年12月28日に実施した。
- 4 各遺跡の所在地は本文中に記した。
- 5 本調査に係わる出土品、諸記録は茅野市尖石縄文考古館で収蔵・保管している。
- 6 発掘調査から報告書作成までに、長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課の諸氏からご指導、ご助言を頂いた。記して感謝する次第である。

## 凡 例

- 1 本書における挿図の縮尺は、挿図中に記している。
- 2 挿図中に方位を示していないものは、図の上が北である。

## 目 次

第1章 市内遺跡発掘調査等事業の概要	1
第1節 茅野市における埋蔵文化財保護の概要	1
第2節 令和2元年度事業の概要	1
第3節 調査の体制	1
第2章 試掘調査	3
第3章 本調査及び工事立会	22
抄録	

# 第1章 市内遺跡発掘調査等事業の概要

## 第1節 茅野市における埋蔵文化財保護の概要

令和3年3月現在、茅野市における周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡とする）は348箇所である。遺跡内およびその隣接地で開発行為が計画された場合、事業者と市教育委員会との間で埋蔵文化財保護に関わる取り扱いを協議し、試掘調査（確認調査）の実施を基本に埋蔵文化財（遺構・遺物）の有無を確認することになっている。埋蔵文化財が確認された場合、工事の計画変更による遺跡の現状保存を事業者に求めているが、やむを得ず失われる場合には、事業者の協力を得て本調査による記録保存を実施している。

近年の当市における発掘調査等は、ほ場整備・土地区画整理・幹線道路新設事業などの公共性の高い大規模な開発に伴うものから、宅地造成・集合住宅建築・個人住宅建築工事などの、民間・個人が事業者となる小規模な開発に伴う発掘調査へと移行している。今後もこのような小規模開発に伴う調査は増加の一途を辿ることが予想される。

## 第2節 令和2年度事業の概要

令和2年度に受理した『土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書（93条第1項）』ならびに『土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知書（94条第1項）』は50件である。

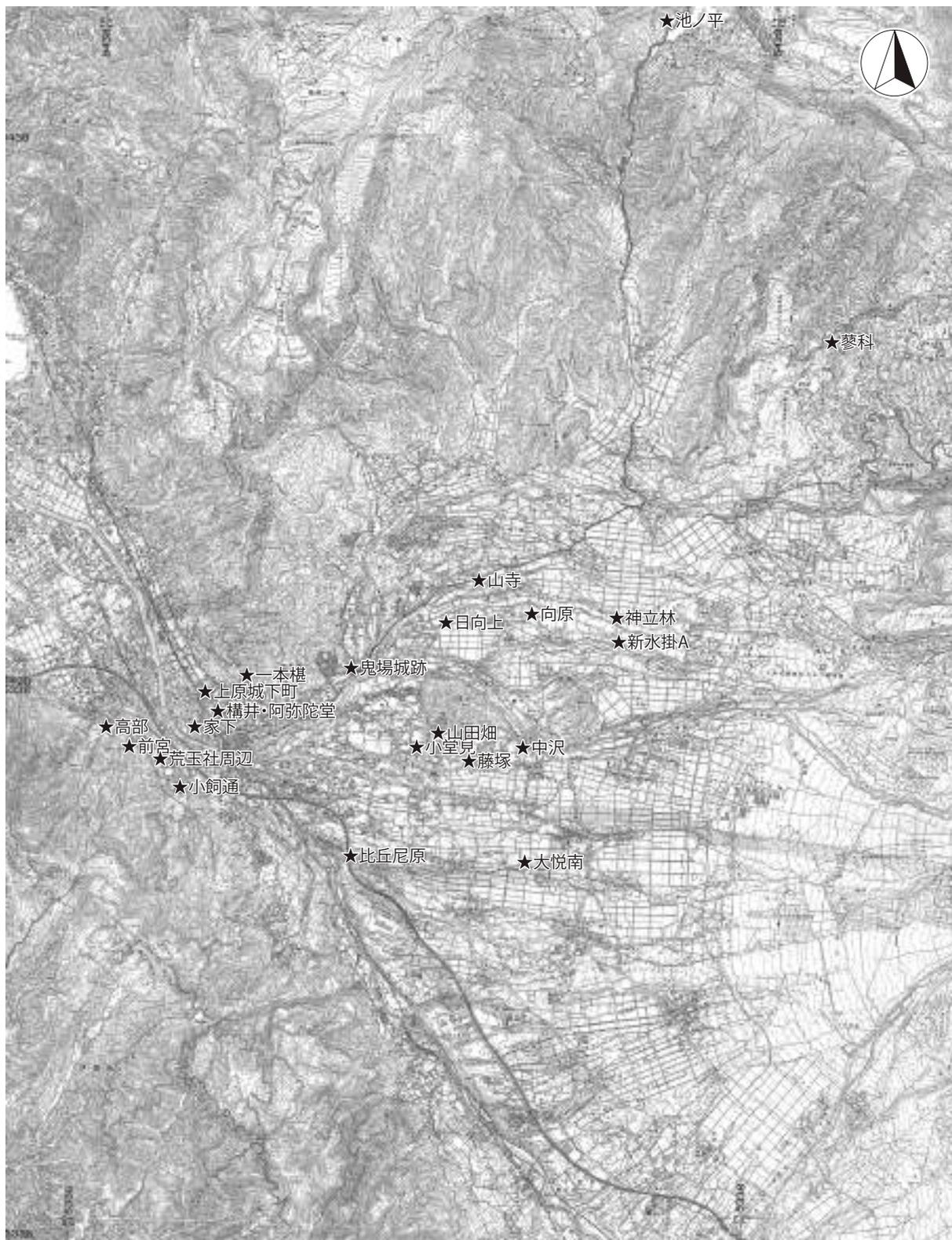
この中で令和2年度国宝重要文化財等保存整備費事業補助金の「市内遺跡発掘調査等事業」の対象事業は、試掘調査が11件、本調査及び工事立会が16件、補助対象事業費は令和2年度に実施した報告書『市内遺跡14』の印刷・発行に伴う費用を含め、含め1,274,146円であった。

本報告では、予算執行を伴わない工事立会についても掲載したが、地下の遺構に影響がないと判断した慎重工事23件については割愛した。

## 第3節 調査の体制

発掘調査は茅野市教育委員会事務局文化財課が実施した。令和2年度の組織は下記のとおりである。

- ① 調査主体者 教育長 山田利幸
- ② 事務局 生涯学習部長 北沢政英
- ③ 文化財課・尖石縄文考古館
  - 五味健志（文化財課長）
  - 守矢昌文（尖石縄文考古館長）
  - 小池岳史（文化財係長）
  - 堀川洸太郎 小林深志 鶴飼幸雄
- ④ 調査担当 堀川洸太郎 小林深志 鶴飼幸雄
- ⑤ 発掘調査参加者
  - 補助員 酒井みさを 大勝弘子 立岩貴江子
- ⑥ 令和2年度・3年度整理作業担当者
  - 堀川洸太郎 吉村璃来 小林深志 鶴飼幸雄



第1図 調査遺跡位置図 (1/100,000) (工事立会を含む)

## 第2章 試掘調査

### 1 蓼科遺跡

遺跡番号 4-2

所在地 茅野市北山字南山栗平ヨリ三室大萱迄 4035-17 他

調査原因 ホテル建設

調査期間 令和3年3月22日

対象面積 1,200㎡

調査面積 85㎡

遺構 なし

遺物 なし

#### 1 遺跡の概要

蓼科遺跡は蓼科高原の標高約1270mの尾根上に位置する。昭和8年の建設工事の際、繊維を多量に含有する貝殻条痕文の尖底土器が発見されている。また、道路に面した崖面からは、竪穴の断面が露出しているのがみられ、繊維土器片や打製石斧が採集されたという。以上から、遺跡の時代は縄文早期・縄文前期とされている。

平成21年12月に、給水管の布設替工事が計画され、工事立会いを行ったが、遺構の検出や遺物の出土はななく終わっている。

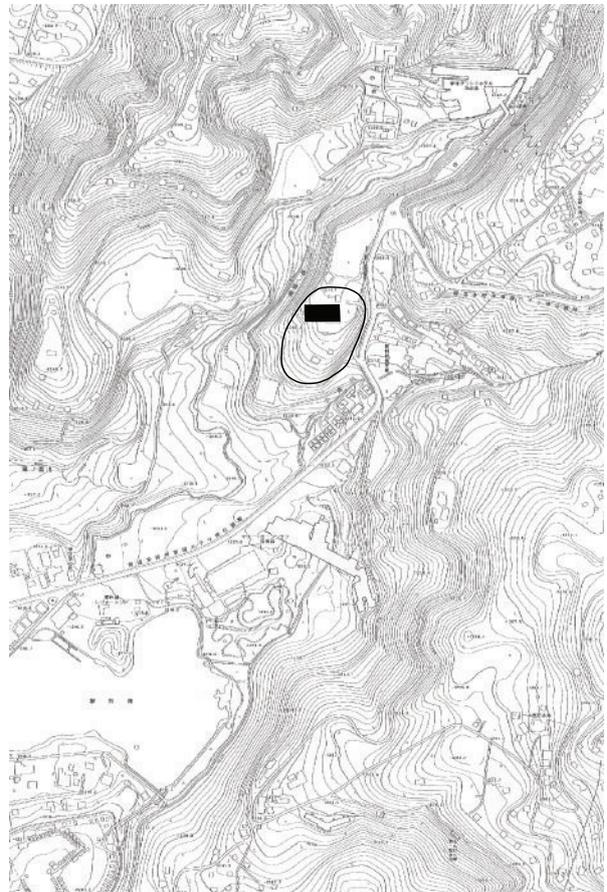
#### 2 調査の概要

調査地点は、遺跡ほぼ中央の、旧ホテルが建設されていた平坦になっている個所である。旧ホテルは地下構造をもった建物であったため、その個所についてはすでに遺跡は壊されていると考えられたが、新しく建設されるホテルとは多少軸線がずれており、旧ホテルから外れている部分に、多少でも遺跡の痕跡が残されている可能性があると考え、その部分について試掘調査を実施することとした。

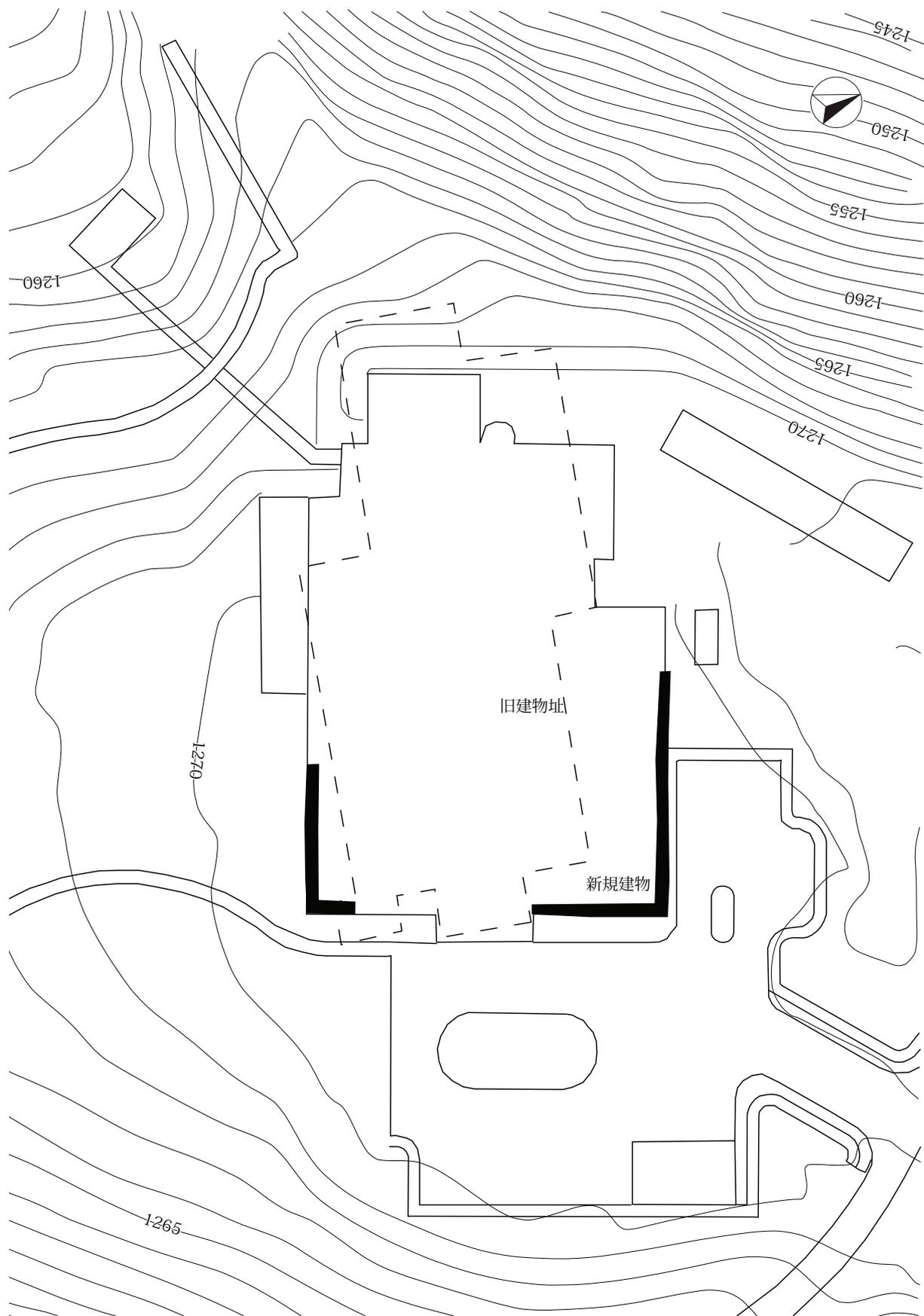
そこで、旧ホテルが解体され更地となっている箇所に、開発する北野建設株式会社に依頼し、旧ホテルと新ホテルの縄張りをロープで示してもらい、旧ホテルの影響を受けていないと考えられる新ホテルのはみ出している個所について、遺構の有無を確認するための試掘調査を行った。試掘調査は、重機を用いて行った。

調査の結果、旧ホテル建設に際して地形を平坦にする造成工事が大規模に行われており、遺物包含層の残っている個所はなかった。また、旧ホテルの建設に際しての工事でも建物範囲よりも広く掘削が行われていることも確認された。このため、遺構の検出や遺物の出土はみられなかった。

蓼科遺跡とされる範囲は広範で、旧地形の残されていると考えられる個所も広く残っているため、今後の開発にも注視していきたい。



第2図 蓼科遺跡調査地点図(1/2,500)



第3図 蓼科遺跡調査範囲図 (1/500)



図版1 北トレ作業風景(東から)



図版2 北トレ作業風景(北西から)



図版3 北トレ(南東から)



図版4 北トレの攪乱(西から)



図版5 南トレ(西から)



図版6 南トレ瓦礫出土状態(西から)



図版7 南トレ作業風景(西から)



図版8 埋め戻し作業(南西から)

## 2 日向上遺跡

### 1 遺跡の概要

日向上遺跡は、標高 920 メートルの台地上に位置し、『諏訪史』第 1 巻にも記録されるなど古くから知られた遺跡である。戦前に宮坂英弐氏が注目し、初めて竪穴住居址を完掘した遺跡としても知られる。現在の集落とほぼ範囲を同じくしているため、大規模な発掘は行われていないが、住宅の建設など何箇所か工事に際し立会を行い、縄文時代の住居址や中・近世の掘建柱建物址などが検出されている。

遺跡番号 74-12

所在地 茅野市豊平 5593-1、5594-1、5584-1、5584-3

調査原因 宅地造成

調査期間 令和 2 年 11 月 5 日

調査面積 49㎡

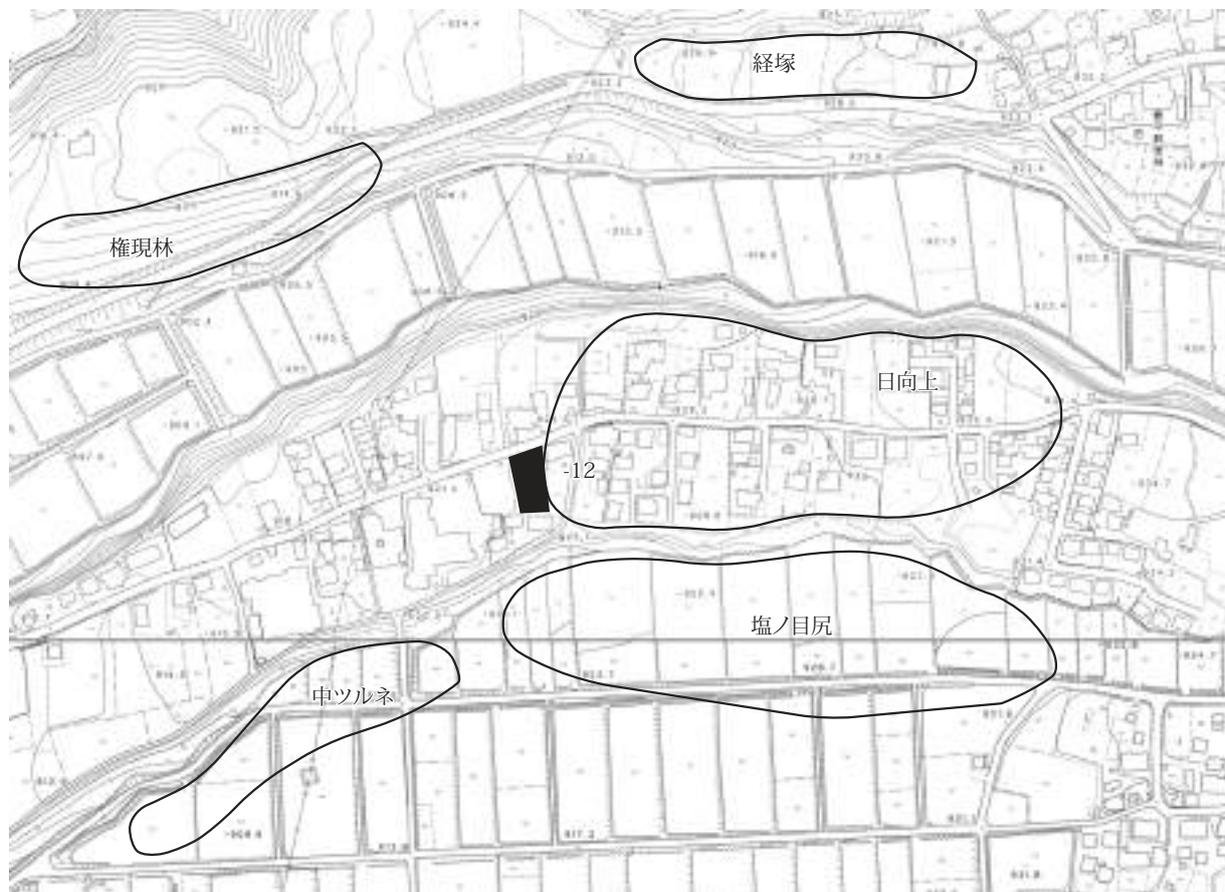
遺構 なし

遺物 なし

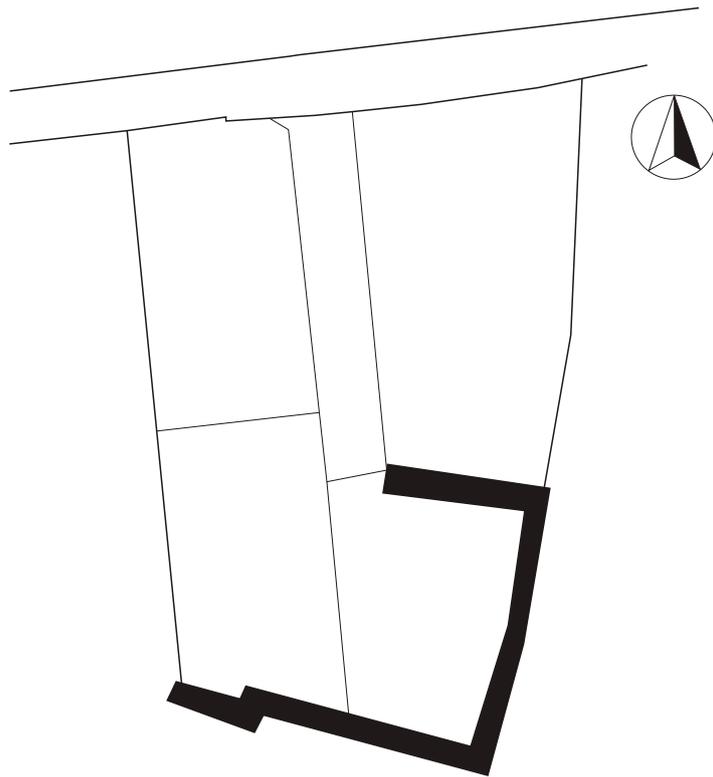
### 2 調査の概要

今回の届出は宅地造成工事に伴うもので、日向上遺跡の西端に位置し、計画地の西半分は遺跡範囲外に位置する。工事では、遺跡範囲内の東側敷地境界で擁壁設置工事が計画され、掘削幅は余掘りも含めて約 1m、深さは約 1m ほどである。掘削深度が深く、遺構検出面に達する可能性があり、また掘削面積も一定の広さに及ぶことから、今回の遺跡の保護措置は試掘調査とした。

調査の結果、遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



第 4 図 日向上遺跡調査地点図 (1/5,000)



第 5 図 日向上遺跡調査範囲図 (1/500)



図版 9 掘削開始 (北東から)



図版 10 調査風景 (東から)



図版 11 遺跡風景 (東から)



図版 12 埋め戻し作業 (南東から)

### 3 大悦南遺跡

遺跡番号 182-7  
所在地 茅野市宮川大悦 9700-3  
調査原因 工場建設  
調査期間 令和2年6月23日～24日  
対象面積 2,974.1㎡  
調査面積 90㎡  
遺構 なし  
遺物 なし

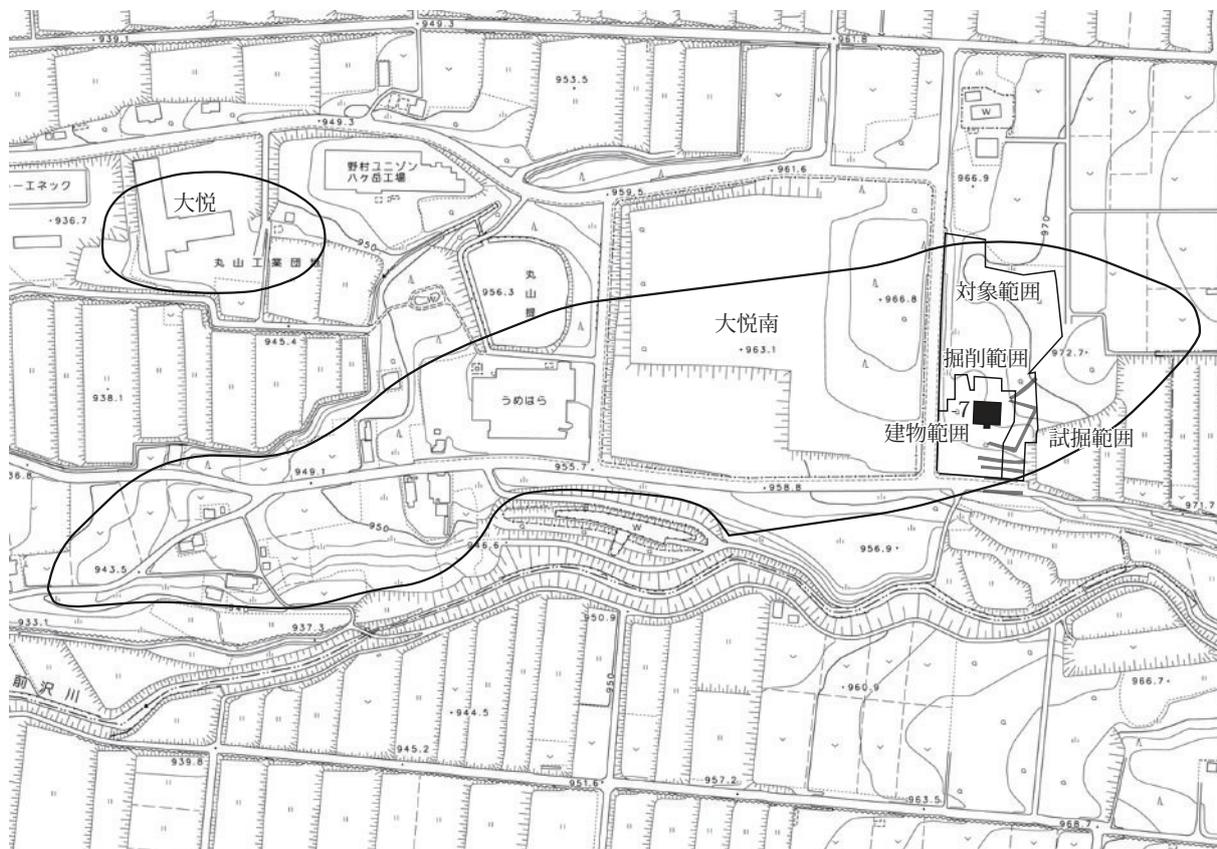
#### 1 遺跡の概要

大悦南遺跡は、茅野市宮川丸山の原村境から丸山の集落に延びている長峰状の大地上に位置する。南には約10 mの比高差をもって前沢川が西流する。

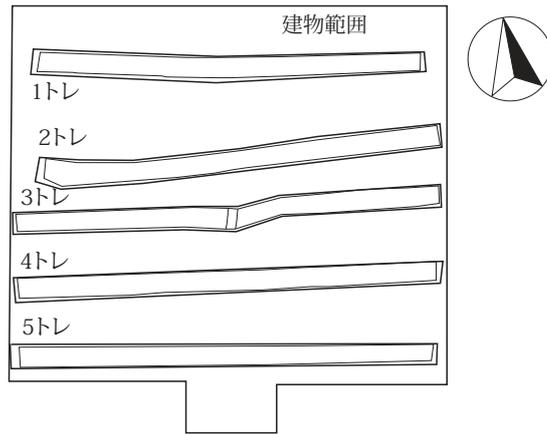
平成6～7年に丸山工業団地造成に伴う発掘調査が行われ、縄文時代早期の竪穴住居址1軒、平安時代の竪穴住居址16軒が検出されたほか、落とし穴や集石群も検出している。また平成17年には工業団地東側の原村との市境で発掘調査をおこない、平安時代の住居址2軒が検出されている。当時は山林であったが、伐根され、現在はササが生い茂っている。

#### 2 調査の概要

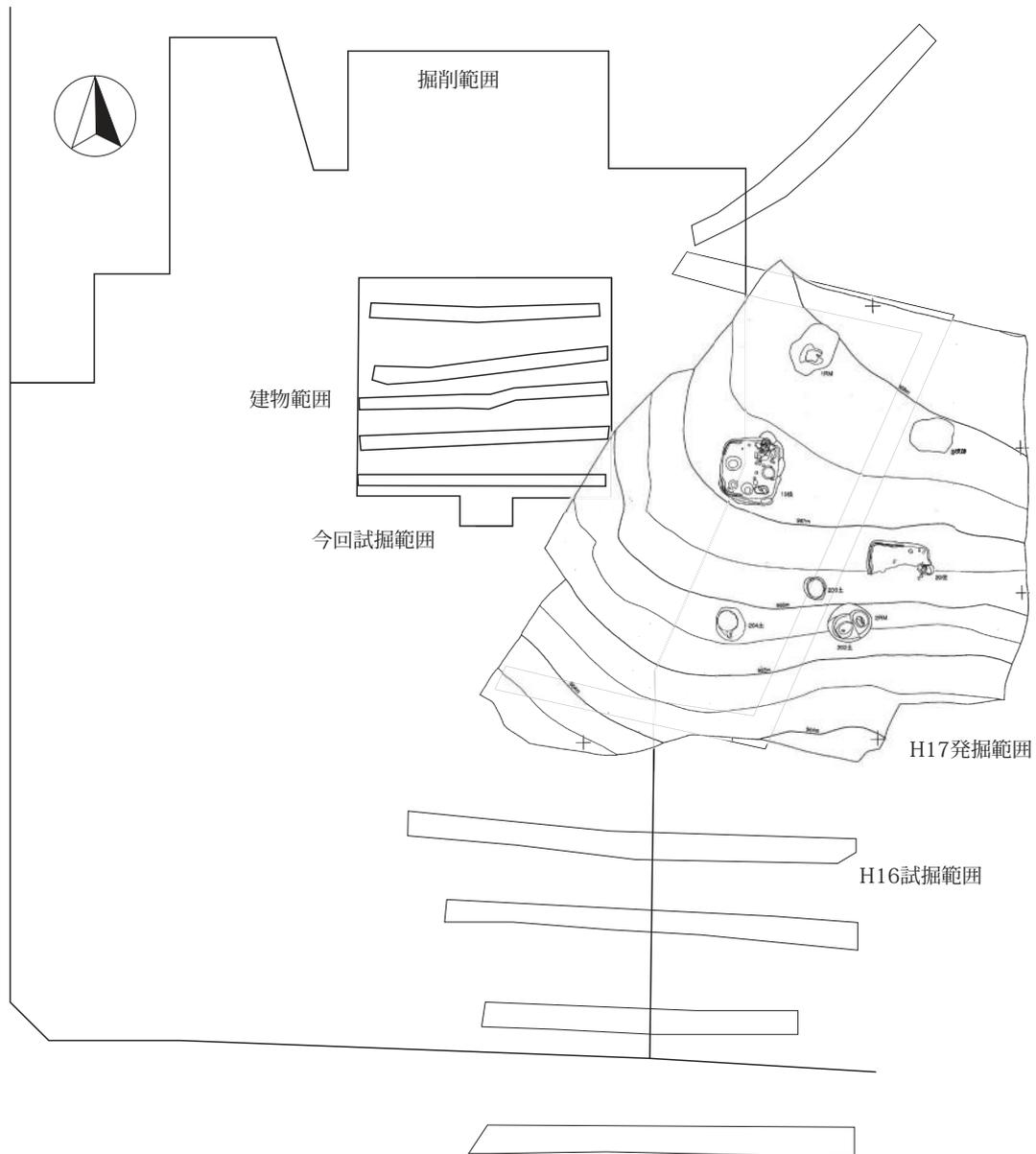
隣接地の調査で平安時代の住居址が検出されていることから、遺構を検出できるよう1～3 mの間隔で5本のトレンチをあけていった。黒色土の掘り込みがあり、中央にロームマウンドのある木の抜根跡が多くみられた他、道の痕跡と思われるローム硬化面が南西から北東方向に確認されたが、他に遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



第6図 大悦南遺跡調査地点図(1/5,000)



第7図 大悦南遺跡トレンチ配置図 (1/300)



第8図 大悦南遺跡周辺調査位置図 (1/500)



図版 13 遺跡遠景 (南西から)



図版 14 遺跡遠景 (西から)



図版 15 1トレの精査 (東から)



図版 16 1～3トレの精査 (西から)



図版 17 4トレ (西から)



図版 18 5トレ (西から)



図版 19 遺跡全景 (西から)



図版 20 遺跡遠景 (西から)

## 4 上原城下町遺跡

### 1 遺跡の概要

霧ヶ峰山塊の南縁を形成する永明寺山（1,156m）の南西一帯は、かつて城下町が形成されていたことから広く遺跡として認識されている。永明寺山裾より南にある上川沖積地に向かって広がる平坦な段丘面上に存在し、JR中央線と国道20号に沿って長く伸びる。永明寺山山腹には多くの古墳が確認されており、それに応じるように本遺跡からも多くの住居址がみついている。近年では広範囲にわたる大小様々な発掘調査の継続により、その成果が集積されつつある。中世に築城された上原城とその城下町が遺跡名の由来であるが、現在ではそれ以上に弥生～古代、そして中世と長期にわたる人の生活の痕が次々と見ついている。また、そうした調査の中には数は少ないが縄文土器や石器、黒曜石といった遺物も出土している。

平成4年からの文化財保護法に基づく届け出は、270件に及び、令和2年度だけでも12件の届け出があった。その多くは個人住宅の建築に伴うもので、基礎工事の際に立会いを行っている。

工事立会では、掘削面が遺構検出面に達しないものもあり、遺構を確認しても掘削面がそれ以上深くない場合は、遺構の掘り下げは行わず、平面プランの測量を実施して終了となるものもある。

今年度発掘調査に至ったものはなく、造成工事に伴って行った試掘調査2件以外はすべて基礎工事の際の工事立会で、遺構検出面まで至っていないことを確認し、終了したものである。

遺跡番号 224-257

所在地 茅野市ちの字大町 803-7

調査原因 宅地造成

調査期間 令和2年5月7日～12日

対象面積 879㎡

調査面積 80㎡

遺構 古墳～平安時代の住居址7、土坑

遺物 黒曜石、古墳土師器、平安土師器・須恵器・灰釉陶器、中世陶器、鉄製品

### 2 調査の概要

調査地点は茅野断層の断層崖の上であり、西側の断層崖下にあるアクアランド茅野との比高差は5mほどである。水田として利用されていた土地で、東側の道路からは1.5mほど下がったところにあるため、水田開削に合わせて水平にする造成が行われ、遺構検出面はすでに削平されているのではないかと考えられた。

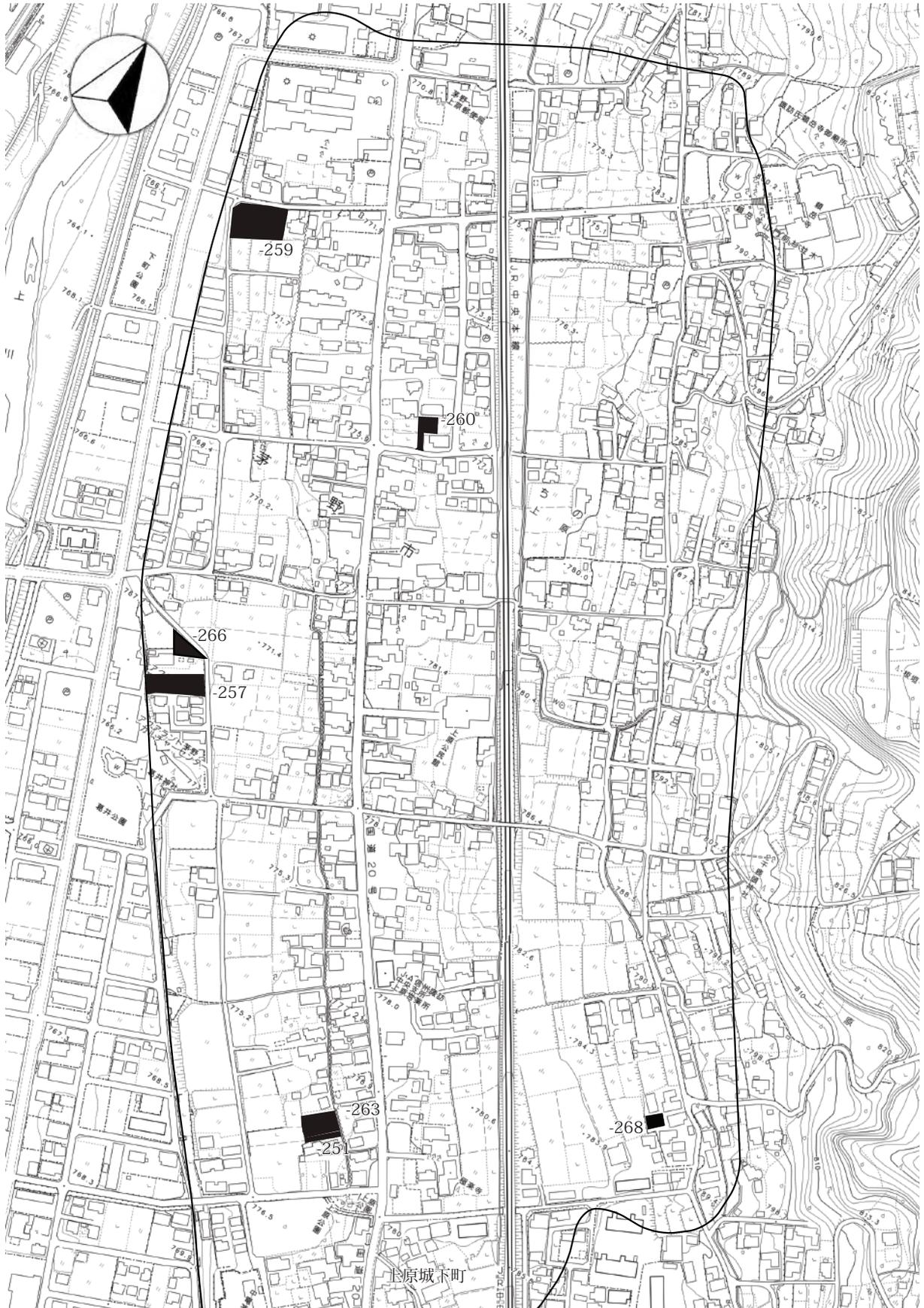
ここを宅地造成するにあたり、道路面まで盛り土をして敷地を道路面と合わせるため、外周に擁壁を設置することとなり、この部分について遺構の有無を確認するための試掘調査を行った。試掘調査は、施工者から重機の提供を受けて行った。

掘削は、道路に近い東側から行った。対象地域の調査範囲図（第10図）と、遺構分布図（第11図）を参照。予想通り、水田による耕作面を取り除くと、礫混じりのローム層となり、遺構検出面はすでに削平され残っていないことが確認された（図版21）。西側に調査を進めていくと、土師器片などを含む薄い遺物包含層が残っているようになり、黒色土を覆土に持つ小ピットが検出された。この小ピットは、遺構検出面より下に掘削が及ばないことが確認されたため、掘り下げを行わなかった。

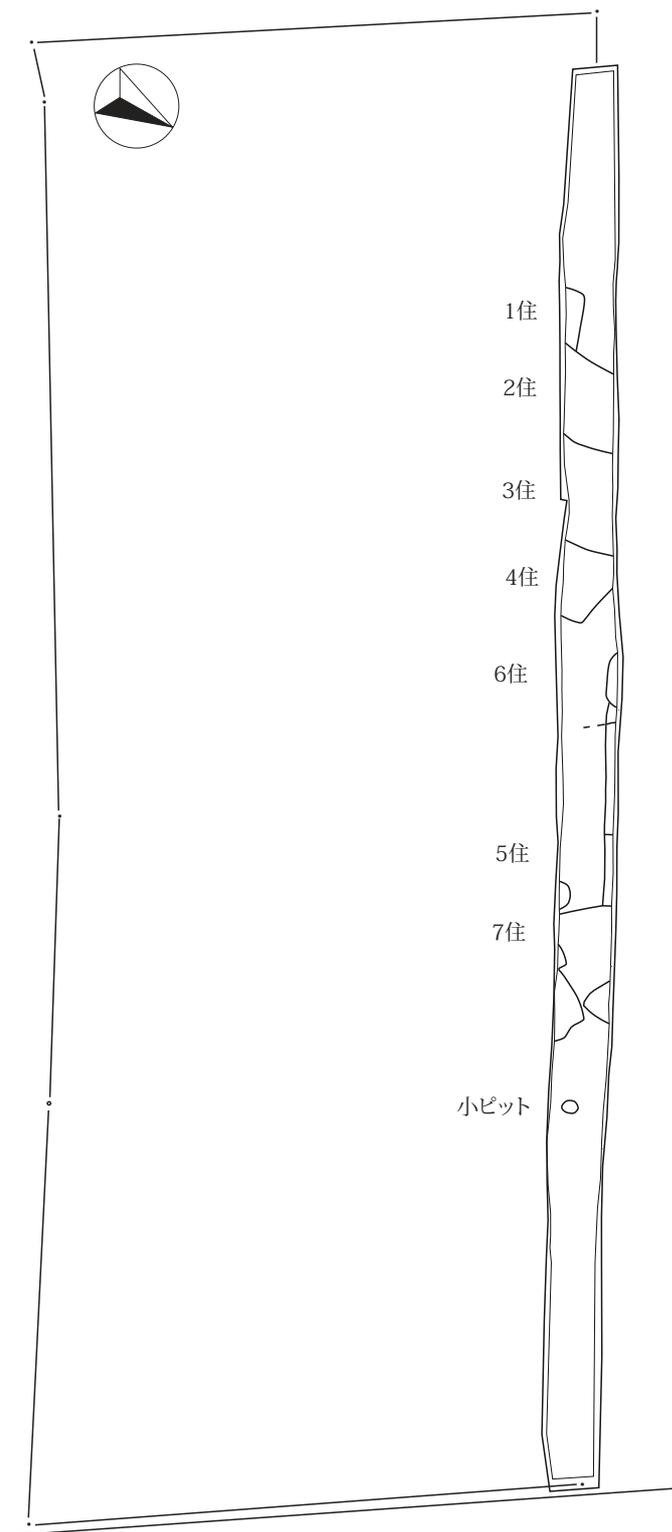
さらに西に掘削を広げていくと、土師器などの遺物に混じり、焼土や炭の混じる土層が確認された。乳白色の粘土の検出もあり、住居のカマドの痕跡と考えられる（図版24）。これを7号住居址とする。

さらに西側に進むと、住居の床面が検出されたが、貼床のある5号住居址、貼床のない6号住居址と続く。5号住居址の覆土からは、灰釉陶器の段皿が出土している。トレンチの北側に、業者の承諾を得てサブトレンチを入れたが（図版27）、床面の比高差はわずかで、遺物の出土も破片ばかりで、貼床のある5号住居址が新しいが、それぞれの時期を確定するまでには至らなかった。

1号住居址～4号住居址とした西側は、広い範囲から土師器などの遺物小片が出土し、全面が住居址の覆土の



第9図 上原城下町遺跡調査地点図 (1/5,000)



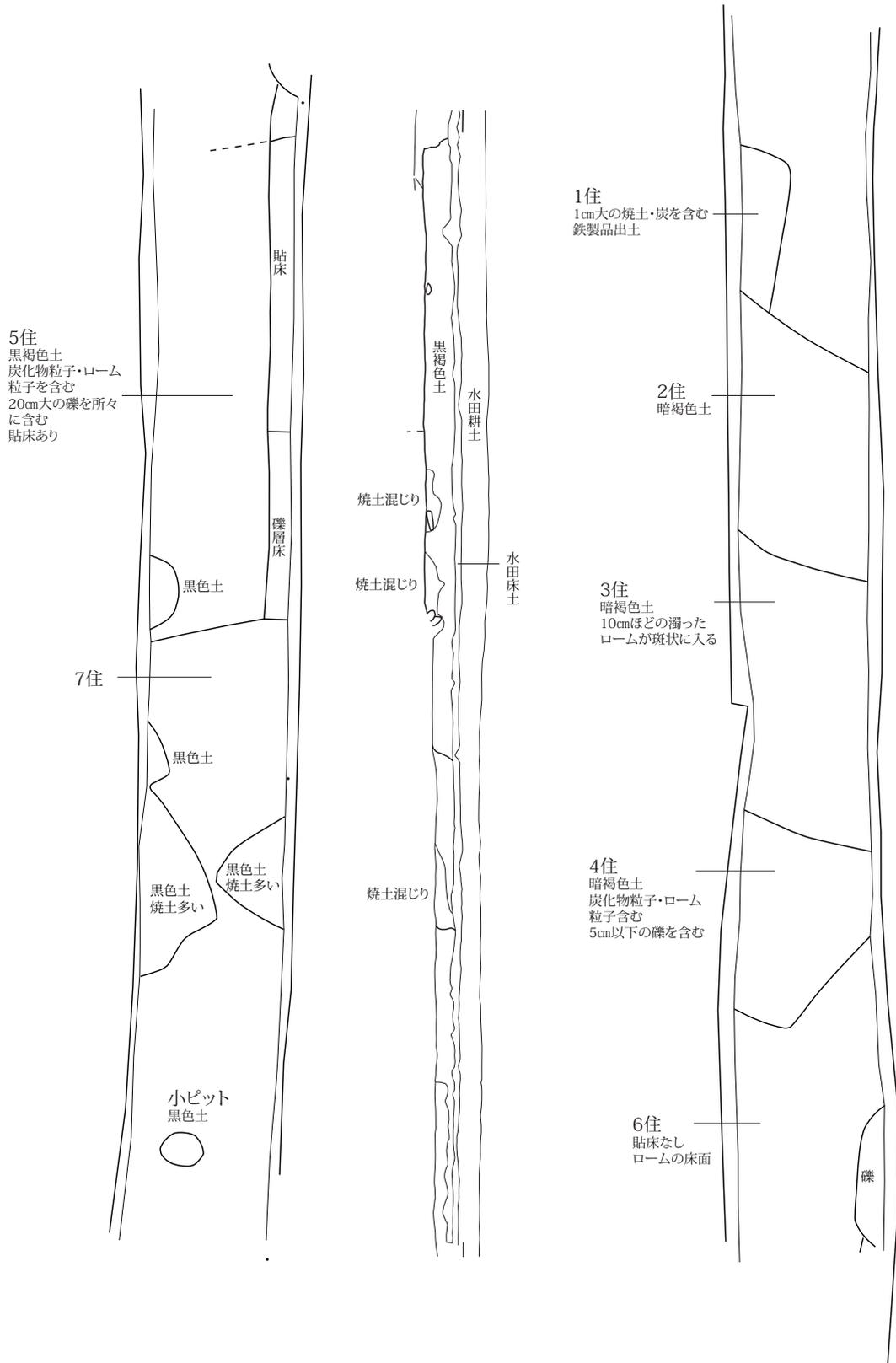
ような様相であった。擁壁の掘り込みがこれより下に及ばないため、平面の土層観察により遺構の数を推定したが、掘り下げは行っていない。出土した遺物は、4号住居址のプランとした範囲内から土師器の坏底部や甕が出土している(図版21・22)。4号住居址は3号住居址に切られているため、これより古い。

1号住居址は2号住居址に切られている。この1号住居址からは、鉄製品の出土があったが、形状は不明である。

この試掘調査の間も、敷地内には土砂が運び込まれ、盛り土が行われていたが、西側の黒土を表面に敷くため、運び出しが行われることになった。

ちょうど水田の耕土を取り除き、床土を剥いだあたりから、須恵器甕の破片がまとまって出土し始めた。この面までの掘削でこれ以上の掘り下げはないとのことであったので、遺構の確認はできず、遺物の回収だけを行った(図版28)。

第10図 上原城下町遺跡調査範囲図(1/250)



第 11 図 上原城下町遺跡遺構分布図 (1/80)



図版 21 トレンチ東側の段差 (西から)



図版 22 作業風景 (西から)



図版 23 作業風景 (東から)



図版 24 カマド痕跡 (南から)



図版 25 遺物出土状態 1



図版 26 遺物出土状態 2



図版 27 サブトレンチ (西から)



図版 28 黒色土中の遺物出土 (東から)

遺跡番号 224-260

所在地 茅野市ちの字播磨小路 1334-3、1334-4

調査原因 集合住宅建築

調査期間 令和2年6月1日

対象面積 305㎡

調査面積 36㎡

遺構 小竪穴 1

遺物 平安土師器・須恵器・灰釉陶器、中世陶磁器等コンテナ 1/2 箱

## 2 調査の概要

調査地点は、JR 中央東線と国道 20 号の間で、上原北交差点を東に 30 m ほど入った北側にある。この小路は『茅野市字名地図』によると、播磨小路とされている。調査地からさらに 20 m ほど東に行くと西方堂跡がある。西方堂の北側は、平成 2 年に行った上原城下町詳細分布調査で、畦畔跡が検出されたほか、中世の陶磁器が出土している。こうしたことから、今回の調査地点からも、中世後半の遺構が検出される可能性がある。

ここに集合住宅の建設が計画されたことから、遺構の有無を確認するための試掘調査を行うこととした。

調査は、現地で基礎工事を行う予定の重機を借り上げ、建物範囲の外周基礎部分について、掘り下げを行った。

調査では、中世後半の遺構の検出が見込まれたことから、地表から少しずつ掘り下げを行っていったが、水田の耕作土の下に、さらに古い水田の耕作土があり、確実に中世の遺物を包含する層は確認できなかったが、水田の床土に混じって、平安時代の土師器や須恵器、灰釉陶器や中世の陶磁器が出土した。遺構は東辺中央で径 2 m の小竪穴を 1 基検出したが、基礎工事の掘削深度が検出面より下には至らないため、遺構の掘り下げを行っておらず、時期などの詳細は不明である。

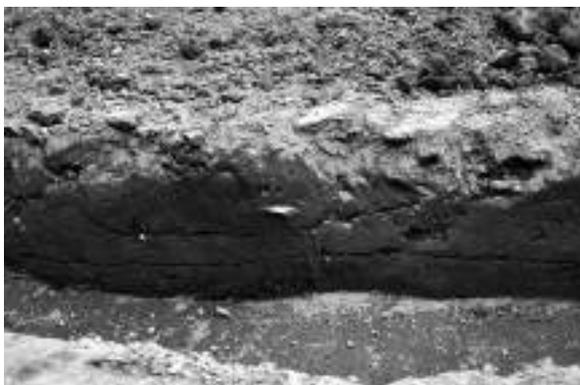
なお、標高については、国道 20 号上原北交差点にある国土交通省都市再生街区基本調査の BM を用いた。



図版 29 掘削状況



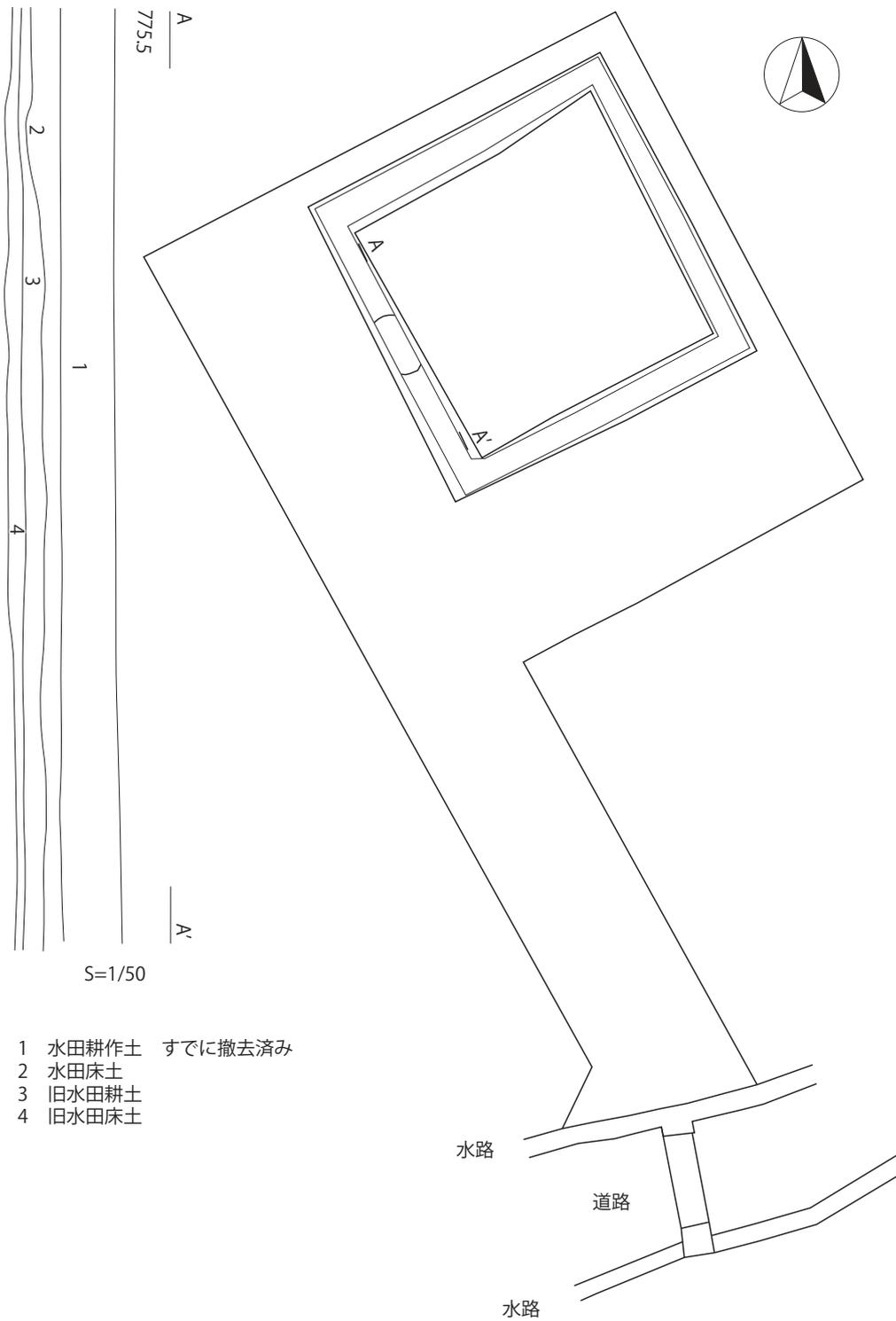
図版 30 作業風景



図版 31 土層状態



図版 32 調査区全景 (東から)



第 12 図 上原城下町遺跡遺構分布図 (1/200)

## 5 池ノ平遺跡

遺跡番号 307-1

所在地 茅野市北山 3419 番地 2

調査原因 公園造成

調査期間 令和2年10月5日～6日

対象面積 6,790㎡

調査面積 35㎡

遺構 なし

遺物 黒曜石 8点、中世内耳土器 1点

### 1 遺跡の概要

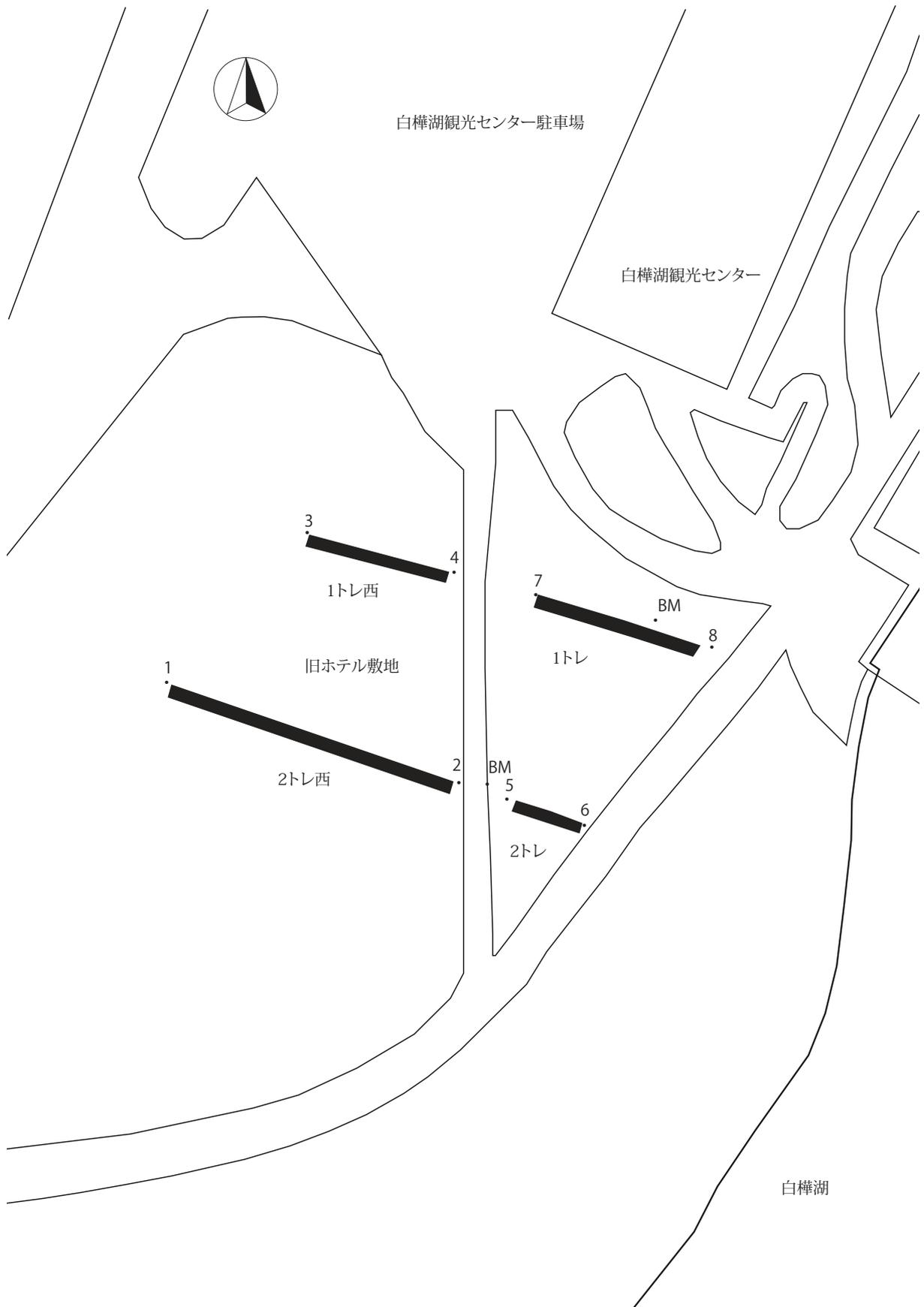
池ノ平は車山よりのびる裾部と、八子ヶ峰よりのびる裾部が、ちょうど接する部分で、盆地状の地形を有している。かつては湿原であったが、現在では人造湖の白樺湖となっている。

近くには隣接して御座岩岩陰遺跡、少し離れて御小屋之久保遺跡があり、対岸には南岸遺跡、対山館遺跡、琵琶石岩陰遺跡がある。いずれも旧石器時代の遺跡として知られている。また、御座岩岩陰遺跡のように、縄文時代から中世にかけて諏訪地方と上田・佐久地方との交通に伴うキャンプ地の性格をもつ遺跡もある。

池ノ平遺跡は、茅野市北山の白樺湖湖畔の御座岩岩陰遺跡に隣接する遺跡として登録されていたが、これまでに調査履歴はない。その範囲のほとんどが旧ホテルの敷地となっており、これの建築工事に伴い、破壊されていると考えられた。今回、公園として整備されることとなり、遺跡の依存状態も含めて確認するため、試掘調査を実施することになった。また旧ホテルと白樺湖畔の間は遺跡にはなっていないものの、旧地形が残されていると考えられるため、この範囲についても試掘調査の対象とすることとした。



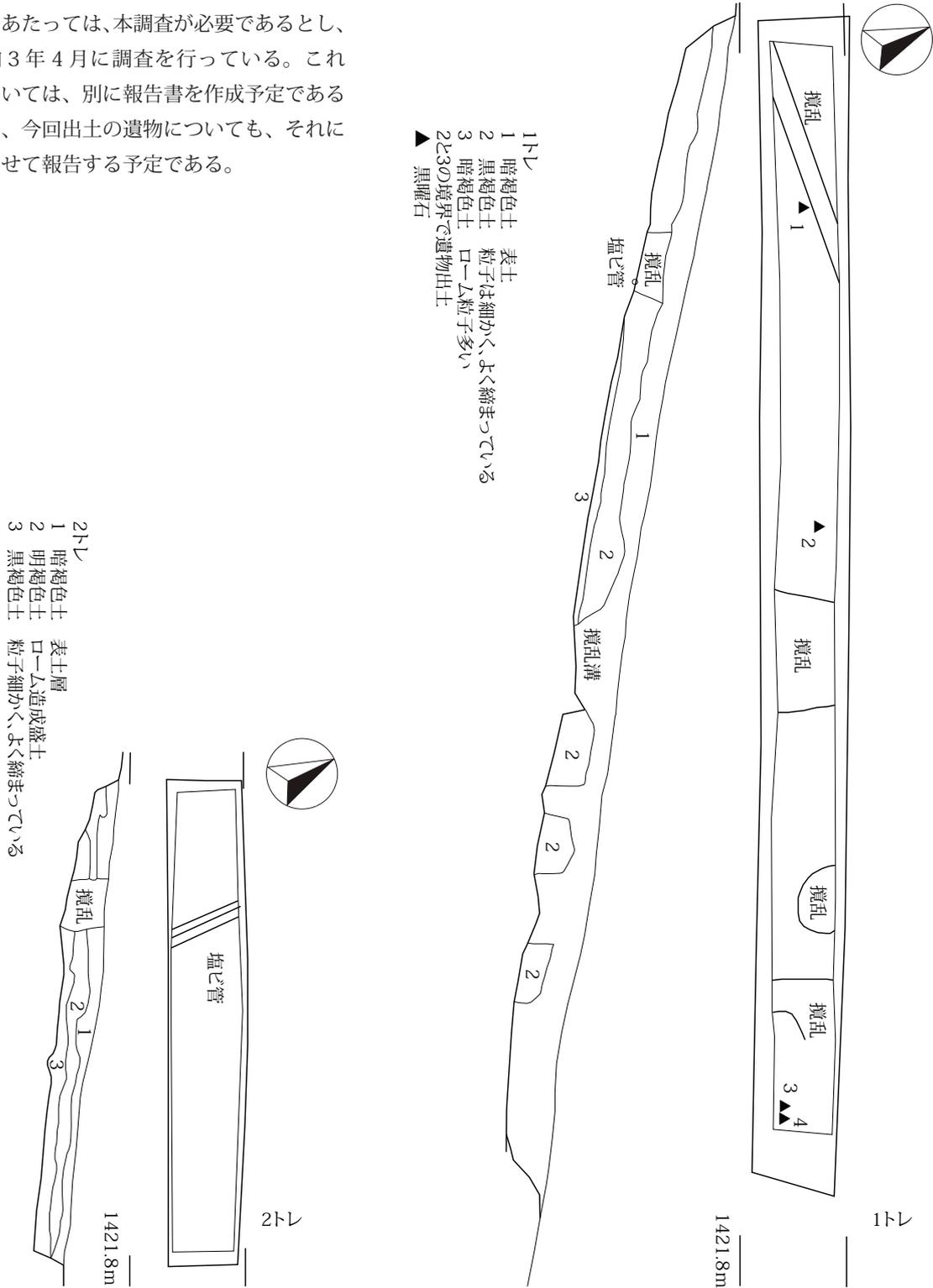
第13図 池ノ平遺跡位置図 (1/5,000)



第 14 図 池ノ平遺跡調査範囲図 (1/500)

# 1 調査の概要

調査の結果、旧ホテル跡地は、造成されているだけでなく、ホテルが地下構造をもつものであったため、掘削と瓦礫の埋め立てにより遺跡はすでに破壊されている状況が確認された。旧ホテルと白樺湖の間の斜面は、水道管や電線が埋設されており、良好な状態ではなかったが、残されたわずかの範囲で旧石器時代と考えられる黒曜石が確認された。このため、この斜面の開発にあたっては、本調査が必要であるとし、令和3年4月に調査を行っている。これについては、別に報告書を作成予定であるため、今回出土の遺物についても、それに合わせて報告する予定である。



第15図 池ノ平遺跡調査図 (1/80)



図版 33 1トレ調査風景(北から)



図版 34 1トレ(北から)



図版 35 2トレ調査風景(北から)



図版 36 2トレ(北から)



図版 37 1トレ西(北から)



図版 38 2トレ西調査風景(北から)



図版 39 2トレ西



図版 40 2トレ西土層堆積状態

# 第3章 本調査および工事立会

## 1 山寺遺跡

遺跡番号 71-23

所在地 茅野市豊平宮ノ前 3140、3141

調査原因 太陽光発電システム

調査期間 令和2年5月8日

対象面積 512㎡

遺構 なし

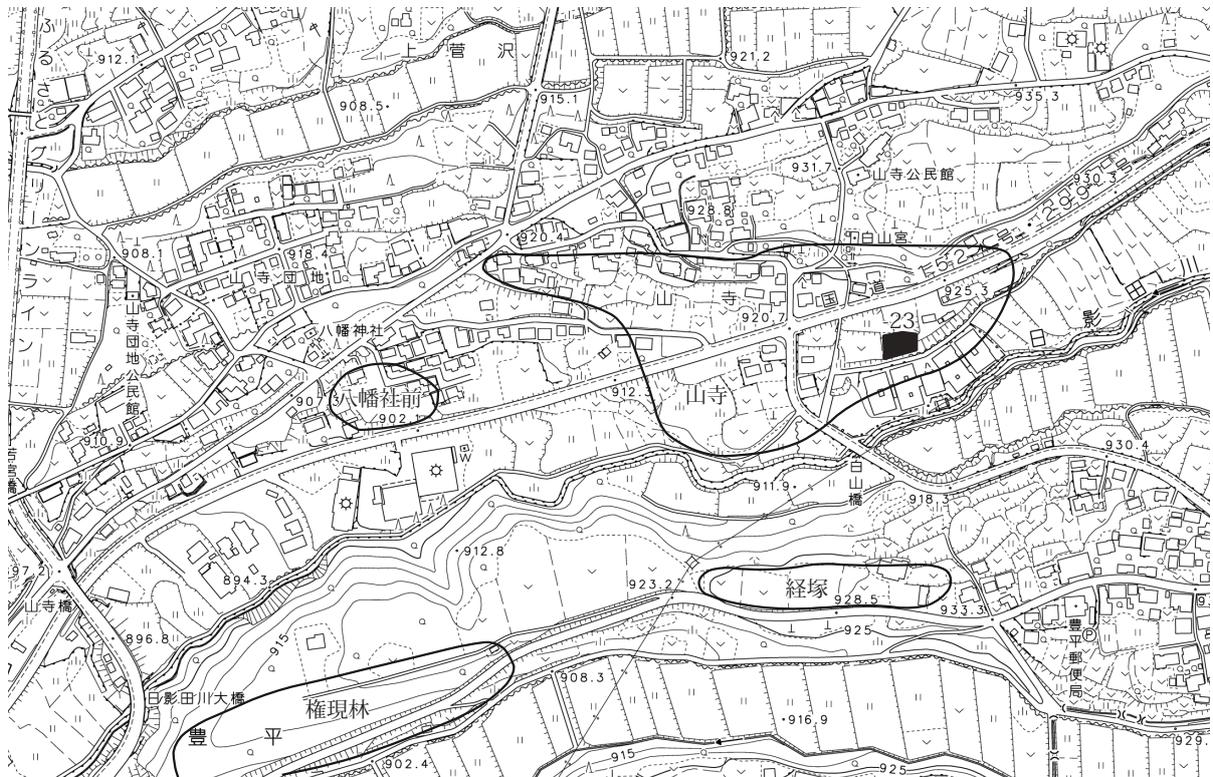
遺物 なし

### 1 遺跡の概要

山寺遺跡は平安・中世の山村集落である。古くから土師器や須恵器の土器が出土する場所として地元の人から知られ、旧豊平村村史編纂事業として行われた発掘調査では平安時代を中心とした住居址が複数検出されている。また、遺跡中央を東西にはしる国道299号バイパス建設に際し昭和63年に行われた発掘調査では、銅製の錫杖が出土したほか大型掘立柱建物址を含む中世の掘立柱建物址が検出されている。以降、これまで道路改良工事・個人住宅建築工事などに伴う発掘調査が行われ、遺跡の実態が徐々に明らかにされている。

### 2 調査の概要

太陽光パネル設置に先立ち計画地内の樹木の抜根に立ち会った。計画地は白山社参道東側の、谷に向かって張り出した地形上に所在し、谷に向かってやや傾斜している。抜根により部分的に表土下の様子が確認できたが、砂地状になっており、遺物遺構は確認されなかった。



第16図 山寺遺跡調査地点図(1/5,000)

## 2 向原遺跡

遺跡番号 79-15

所在地 茅野市豊平 2472-2

調査原因 宅地造成

調査期間 令和2年12月4日

調査面積 80㎡

遺構 なし

遺物 なし

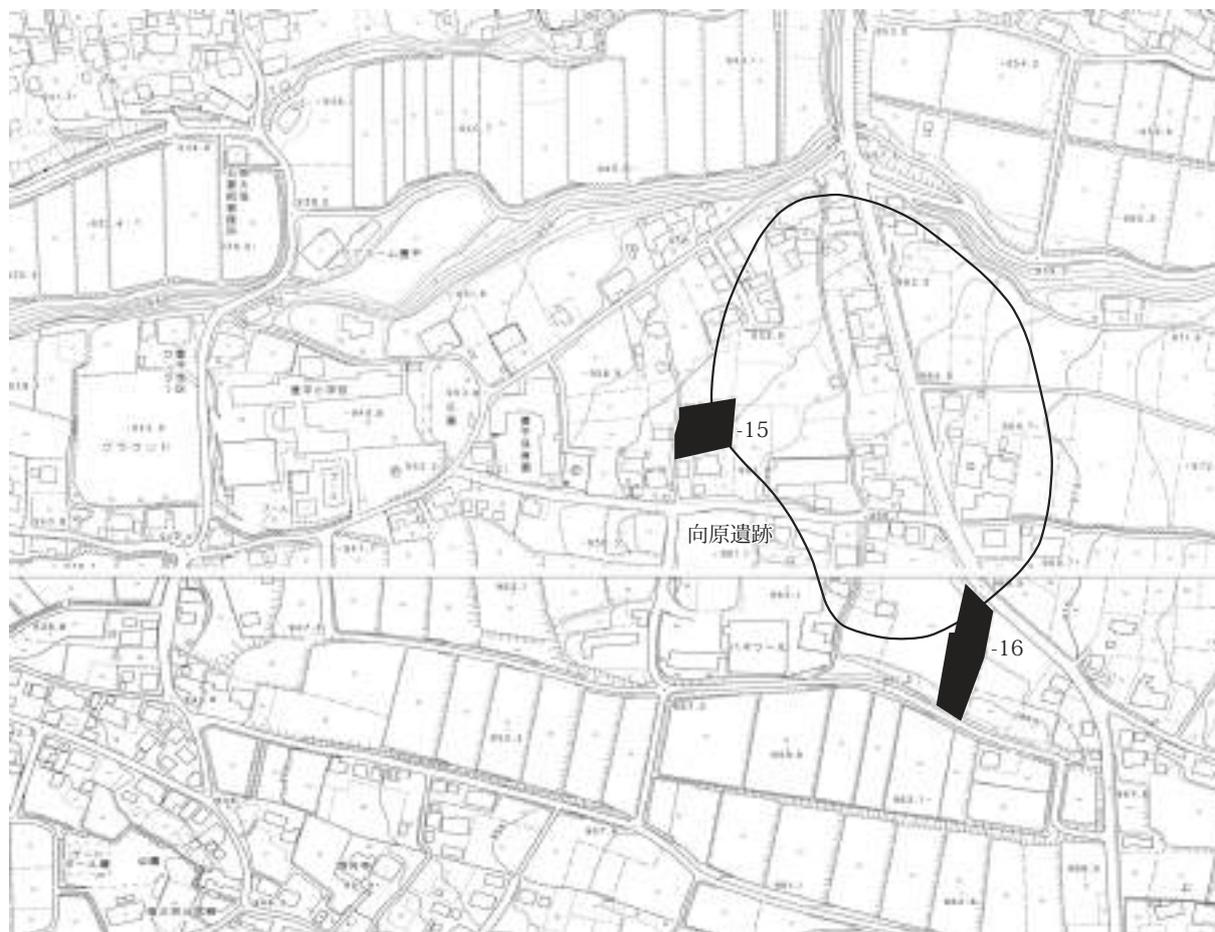
### 1 遺跡の概要

向原遺跡は縄文時代前期から中期の土器と石器の散布が確認されている遺跡である。これまで周辺の個人住宅・共同住宅の建設工事にともなう工事立会を実施しているが、遺構の検出には至らず、遺跡の実態は判然としない。本計画地の北に隣接する区画で行われた宅地造成工事に先立つ試掘調査では、擁壁および進入路建設箇所での当時の現地表面から深さ約50cm～1m、進入路は約40cm～50cm程度掘削をおこなったが、深さ60cm程でローム層に至ったものの、遺物・遺構は確認されなかった。

### 2 調査の概要

今回通知された工事は個人住宅建設に伴うものである。工事は基礎外周で深さ55cm、内部で25cmの掘削をおこなうものである。

今回も遺跡の西端で遺跡の中心から離れているため、遺構があったとしても密度は薄いのではないかと考えら



第17図 向原遺跡調査地点図(1/5,000)

れた。工事立会は、施工業者から重機の提供を受け、基礎部分について、遺構検出面であるローム面までの掘削を行った。その結果、遺構の検出はなく、遺物の出土もなかったため、本調査に移行することなく終了した。



図版 41 掘削状態 (南東から)



図版 42 掘削状態 (南東から)

遺跡番号 79-16

所在地 茅野市豊平 2398-1、2399

調査原因 太陽光発電施設

調査期間 令和3年1月15日

対象面積 1,603㎡

遺 構 なし

遺 物 なし

### 3 調査の概要

今回通知された工事は太陽光発電施設建設に伴うものである。工事はパネルの架台を支える柱を、深さ1m40cm程度まで打ち込み、敷地北西隅に引込柱を建てるものである。本計画地は敷地の北側5分の1程度が遺跡範囲に該当している。周辺の個人住宅建設に際しての立会では遺構等は確認されておらず、分布の可能性は低いと考えられる。また掘削部が狭少であり、通常の発掘調査は困難であることから、保護措置は工事立会とした。



図版 43 作業風景



図版 44 作業風景

### 3 神立林遺跡

遺跡番号 84-2

所在地 茅野市豊平 4734-7784、-7952、-7954、-7958、-7876

調査原因 水道管敷設

調査期間 令和2年10月14日

調査面積 2㎡

遺構 なし

遺物 なし

#### 1 遺跡の概要

神立林遺跡は、茅野市豊平の尖石遺跡から南大塩の集落に伸びる長峰状の台地上に位置している遺跡で、土師



第18図 神立林・新水掛A遺跡調査地点図(1/5,000)

器の坏や縄文時代の石囲炉が見つかった記録があり、昭和 33 年には縄文時代前期末の土器底部が出土している。しかし、現在では南大塩の集落縁辺から八ヶ岳頂上までの字名がすべて東嶽となっており遺跡の位置は不明となっている。平成 17 年には今回の工事計画地の道路を建設する際に、調査を行い、土坑 1 基を検出している。

## 2 調査の概要

通知された工事は、配水管敷設工事である。市道歩道に沿って新規に掘削するものであり、掘削の深度は約 1.2 m であるが、幅は 60cm と狭小である。本工事に伴う掘削範囲に鑑みて調査は困難であることから、保護措置は工事立会とした。工事立会では遺物・遺構は確認されなかった。



図版 45 掘削状況 1



図版 46 掘削状況 2

## 4 新水掛 A 遺跡

遺跡番号 89-6

所在地 茅野市豊平 784-2

調査原因 水道配水管敷設および減圧弁設置

調査期間 令和 2 年 11 月 16 日

調査面積 8㎡

遺 構 なし

遺 物 なし

### 1 遺跡の概要

新水掛 A 遺跡は、宮坂英弼氏によって昭和 5 年・12 年・13 年に発掘調査が実施され、土偶や縄文中期土器が発見されている。昭和 52 年には、遺跡の中央部を東西に横断する道路の拡幅工事に伴い、茅野市教育委員会によって発掘調査が実施された。この結果、遺構は小竪穴群と縄文中期の屋外埋甕が発見され、遺物は縄文前期・中期・後期土器や打製石斧・磨製石斧・横刃形石器などの各種石器が出土している。

### 2 調査の概要

通知された工事は、配水管敷設および減圧弁設置である。減圧弁については、深さ約 2 m 30cm、底部の広さを 3.7 × 2.1 m で掘削するものである。本工事の計画地から東へ続く道路の拡幅工事に際しては「埋蔵文化財の概要」項で述べた通り多数の遺物・遺構が発見されており、本工事でも遺構・遺物が出土する可能性が高いことから試掘調査を行うことにした。

実際には、アスファルトの掘削などを伴い、教育委員会が単独で調査をすることが難しいため、工事の施工に合わせ、立ち合いながら遺構の有無を確認することにした。

調査の結果、歩道敷きの工事により遺構検出面より下に掘削が及んでおり、遺構の検出はできなかった。また、遺物の出土もなかった。



図版 47 掘削状況 1



図版 48 掘削状況 2

## 5 一本榎遺跡

遺跡番号 107-9

所在地 茅野市塚原2丁目6-1

調査原因 永明寺山公園墓地整備

調査期間 令和2年5月27・28日、6月10・11日、10月13・14日

対象面積 2,010㎡

遺構 なし

遺物 なし

### 1 遺跡の概要

一本榎遺跡は縄文時代中期から古墳時代、平安時代から中世まで継続した集落遺跡で、古墳時代には「永明寺山腹古墳群」が築造されている。過去、複数回の発掘調査が行われている。昭和48年市道改良工事に伴う発掘調査では、縄文時代中期住居址と弥生時代後期住居址が各6軒、後期古墳が1基検出されている。

### 2 調査の概要

通知された工事は、永明寺山公園墓地整備に伴うものである。工事は植生工、巨石積取り壊し、駐車場整備、合葬式墓地築造工を含むものであるが、本事業にともなって新規の掘削をおこなうのは、合葬式墓地（納骨堂）の建設である。納骨堂建設の基礎工事は、基礎を現況から深さ約80cmで掘削して設置するものである。しかし納骨堂建設予定地は、南側に向かって傾斜する斜面に盛土をおこなって造成した箇所であり、その高さはおよそ2～3mに及ぶものであり、遺構検出面までの掘削には至らないものとみられた。そこで、工事の際に立ち会いを行いこことした。

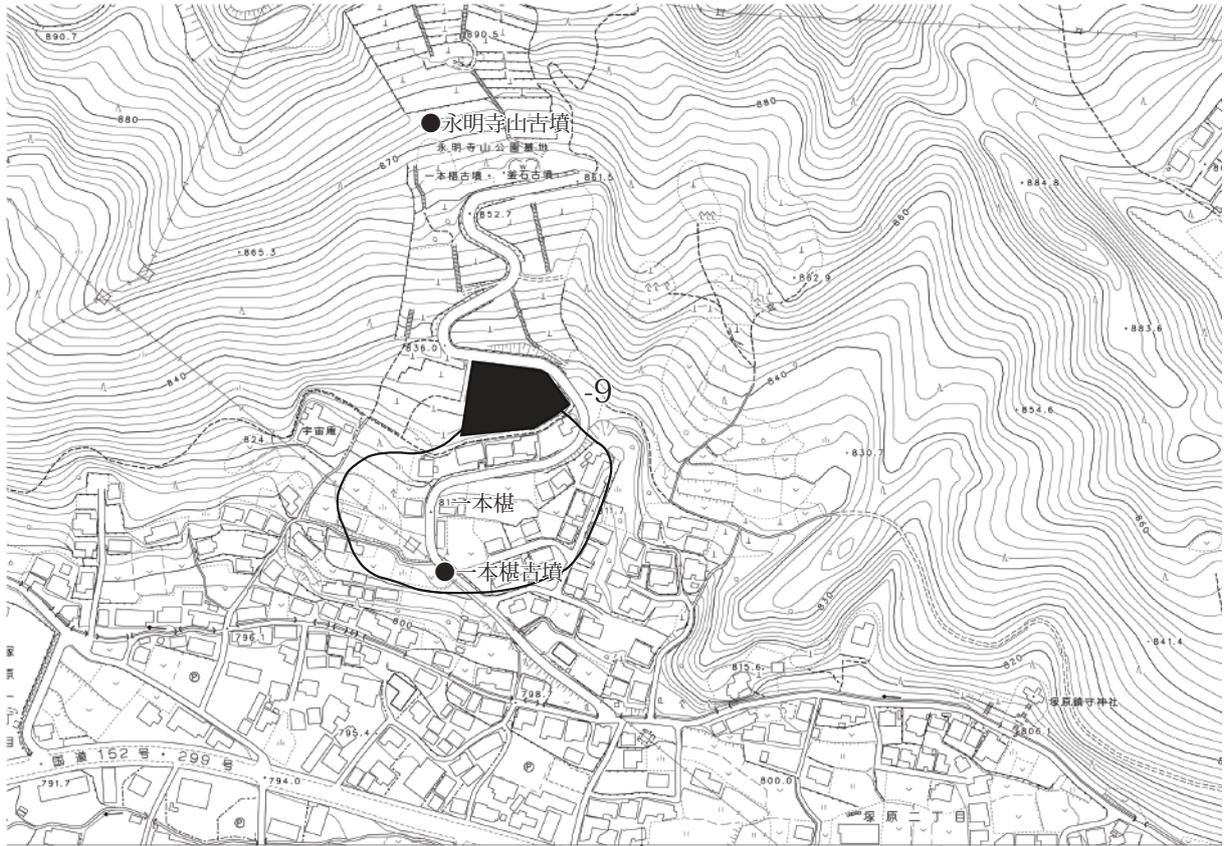
立会の結果、遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



図版 49 掘削前



図版 50 掘削状況



第 19 図 一本榎遺跡調査地点図 (1/5,000)

## 6 家下遺跡

遺跡番号 110-70

所在地 茅野市ちの字家下 2573-1

調査原因 個人住宅建築

調査期間 令和 2 年 5 月 27 日

対象面積 67.44㎡

遺 構 なし

遺 物 なし

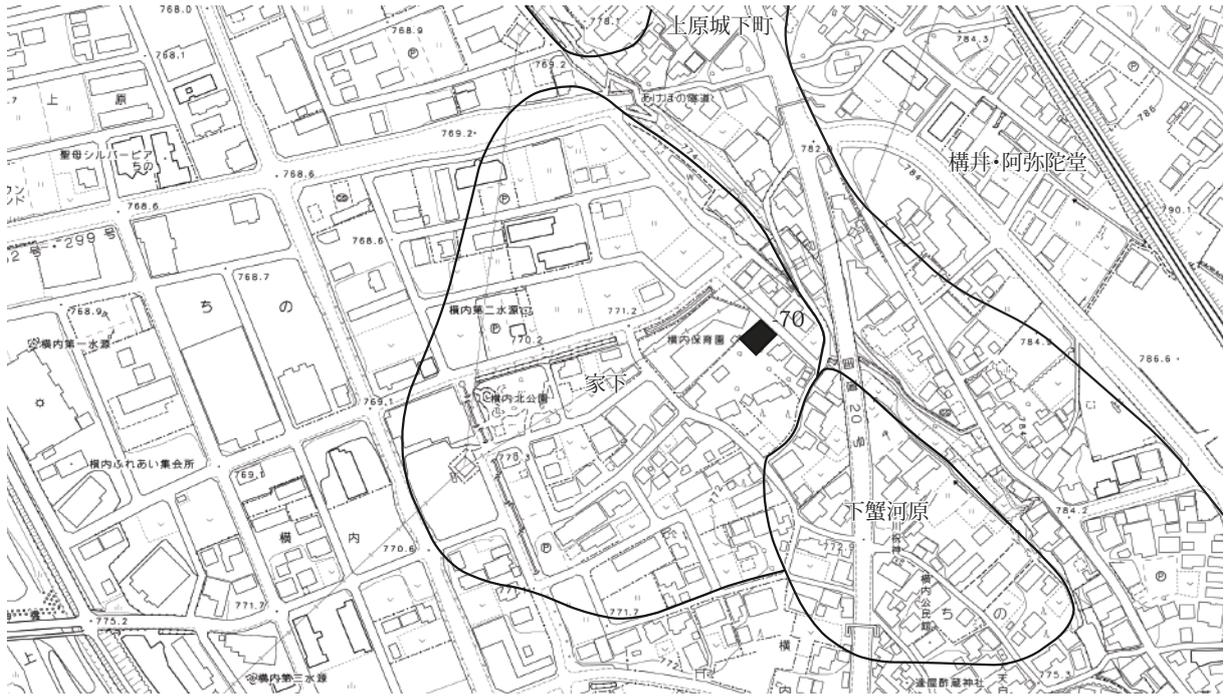
### 1 遺跡の概要

家下遺跡は茅野駅の西に走る断層崖下の沖積低地に立地する。時代的には縄文時代から近世まで継続する集落遺跡で、現時点において時代の中心は弥生時代から古墳時代である。平成 6 年から 3 ケ年かけて行われた土地区画整理事業に伴う発掘調査を緒とし、集合住宅・個人住宅建築工事などに伴う大小の発掘調査により、遺跡の実態が徐々に明らかにされている。平成 25 年度の保育園建替えに伴う発掘調査では弥生中期から平安前期までの 14 軒の住居址が見つかった。

### 2 調査の概要

届出された工事は個人住宅建設工事に伴うものである。宅地造成及び本計画地の南西側隣接地の個人住宅建設工事にも立会を行ったが、遺構の検出はなく遺物の出土もみられなかった。今回の基礎工事は外周を深さ 60cm、幅約 30cm、内部を深さ 25cm で掘削するベタ基礎であるが、遺構確認面に達する可能性のある外周部の掘削範囲が狭小であることから、保護措置は工事立会とした。

立会の結果、遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



第 20 図 家下遺跡調査地点図 (1/5,000)



図版 51 掘削状況 1



図版 52 掘削状況 2

## 7 高部遺跡

遺跡番号 123-15

所在地 茅野市宮川 270-1

調査原因 事務所建築

調査期間 令和 2 年 7 月 20 日

対象面積 196㎡

遺 構 なし

遺 物 なし

### 1 遺跡の概要

高部遺跡は守屋山系の麓に広がる、奥行き深い勾配のある扇状地に立地する。昭和 56 年、火葬場「静香苑」に通じる取り付け道路の建設に伴い、市教育委員会が発掘調査を行っている。I 区と II 区に分けられた調査区の総面積は 1200㎡である。縄文時代の中期の住居址 10 と屋外埋喪 2、後期の土坑、古墳時代後期の住居址 2 と

土坑墓 1、平安時代の住居址 24 が検出され、遺構密度の濃い時代が複合する集落遺跡であることが確認された。

## 2 調査の概要

届出された工事は、事務所建設である。基礎工事は外周を深さ 80cm、幅約 60cm で掘削し、内側は 25cm の掘削である。計画地周辺の地下の様相は不明であるが、遺構検出面に達する可能性のある外周部での掘削は幅が狭く、通常の調査は困難であることから、保護措置は工事立会とした。

立会は、布基礎部分の四隅を重機によって掘り下げる。北東隅は 80cm 掘り下げてもローム面とならなかった。南西隅は 80cm 掘り下げたところでローム面となる。北西隅は 50cm 掘り下げるとローム面。遺構の検出や遺物の出土はなかった。



第 21 図 高部遺跡調査地点図 (1/5,000)



図版 53 掘削状況 1



図版 54 掘削状況 2

## 8 前宮遺跡

遺跡番号 129-29

所在地 茅野市宮川 2040

調査原因 照明・電気設備設置工事

調査期間 令和2年12月18日

対象面積 96㎡

遺構 なし

遺物 なし

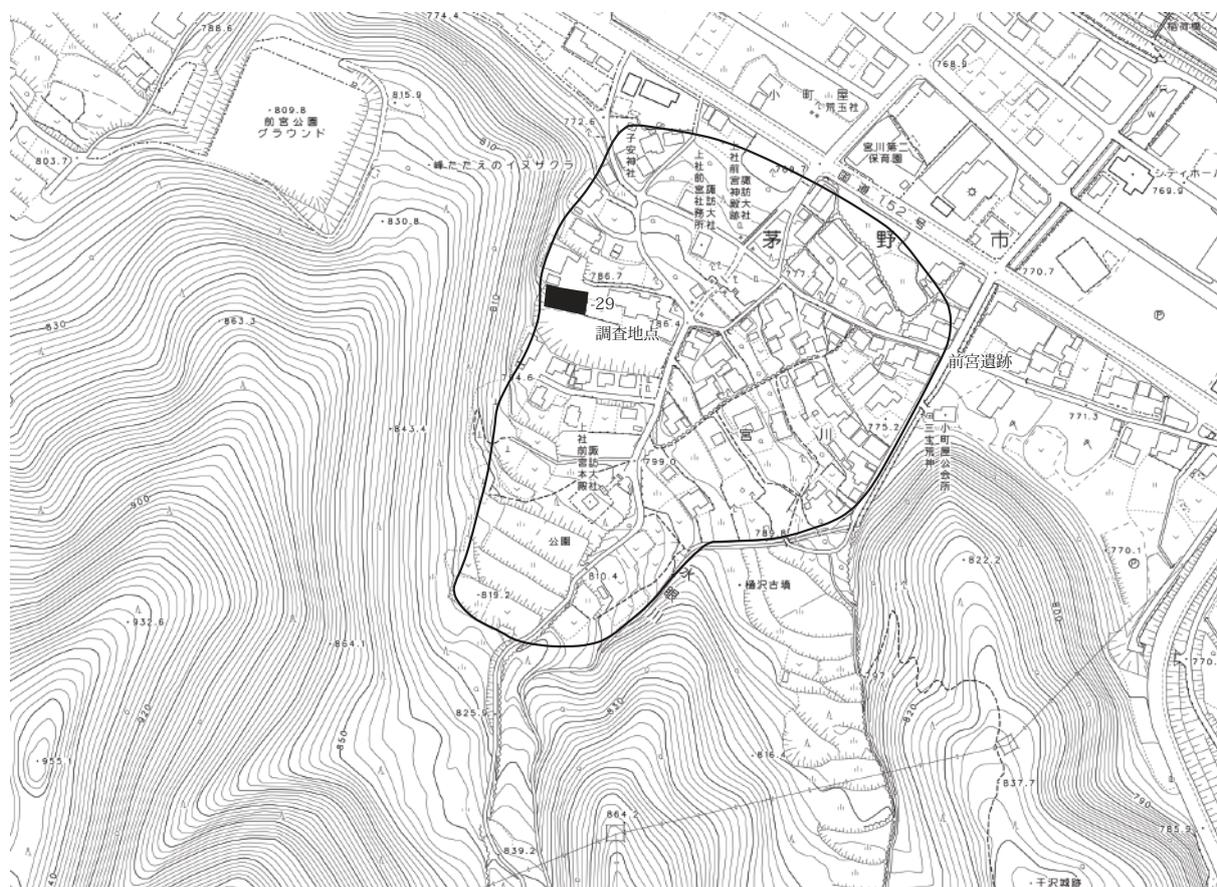
### 1 遺跡の概要

前宮遺跡は縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世の遺構・遺物が遺る遺跡である。遺跡内には古墳群が構築されている。中世には諏訪大社大祝の居館があったところで、諏訪神社の重要な神事が行われ、その一部が諏訪大社上社前宮神殿跡として長野県史跡に指定されている。隣接地では、令和元年度に公園造成工事に際して、発掘調査が行われ、古墳時代～中世にかけての遺構が確認されている。

### 2 調査の概要

祠（鶏冠社）前面に据えられている石燈籠に電力照明を実装するため、電柱と支線を設置するものである。工事では、配線部で深さ20cm、幅30cmの、電柱埋設部では深さ約1m、幅30cm四方、支線部で深さ80cm、幅60cm四方の掘削を行う。隣接地の調査から、本計画地周辺では深さ2～3mの盛土になることが確認されていることから破壊される可能性は低く、また掘削範囲も極めて狭少であることから、保護措置は工事立会とした。

立会の結果、遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



第22図 前宮遺跡調査地点図(1/5,000)

## 9 小飼通遺跡

遺跡番号 134-6

所在地 茅野市宮川字小飼通 3050-4

調査原因 個人住宅建築

調査期間 令和2年9月8日

調査面積 5㎡

遺構 なし

遺物 なし

### 1 遺跡の概要

小飼通遺跡はその地形の良さや杖突峠の麓という交通の要所であることから、近くには古墳が数多く造られ、中世には安国寺が置かれるなど繁栄した場所である。「諏訪史」第一巻には遺物発見地として本遺跡が記されている。また、縄文時代の遺物も数多く出土しており、土偶や石剣、耳飾りが出土したという記録も残っている。しかし、現在にいたるまで実際に調査が行われたことはなく、その実態は判然としていない。

### 2 調査の概要

今回届出された工事は個人住宅建設工事である。基礎は外周部を深さ60cm、幅45cm、内部では23cm掘削するものである。計画地の現況は耕作地であるが、周辺での調査履歴がなく盛り土の有無なども不明である。遺跡の南端であるが、別の出頭遺跡とも隣接している。

立会の結果、掘削深度内は盛土で、遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



第23図 小飼通遺跡調査地点図(1/5,000)

## 10 長峰(比丘尼原)遺跡

遺跡番号 149-2

所在地 茅野市宮川 7459-1 から 7619-2

調査原因 水道管敷設変え

調査期間 令和2年5月29日・6月1日

調査面積 8㎡

遺構 なし

遺物 なし

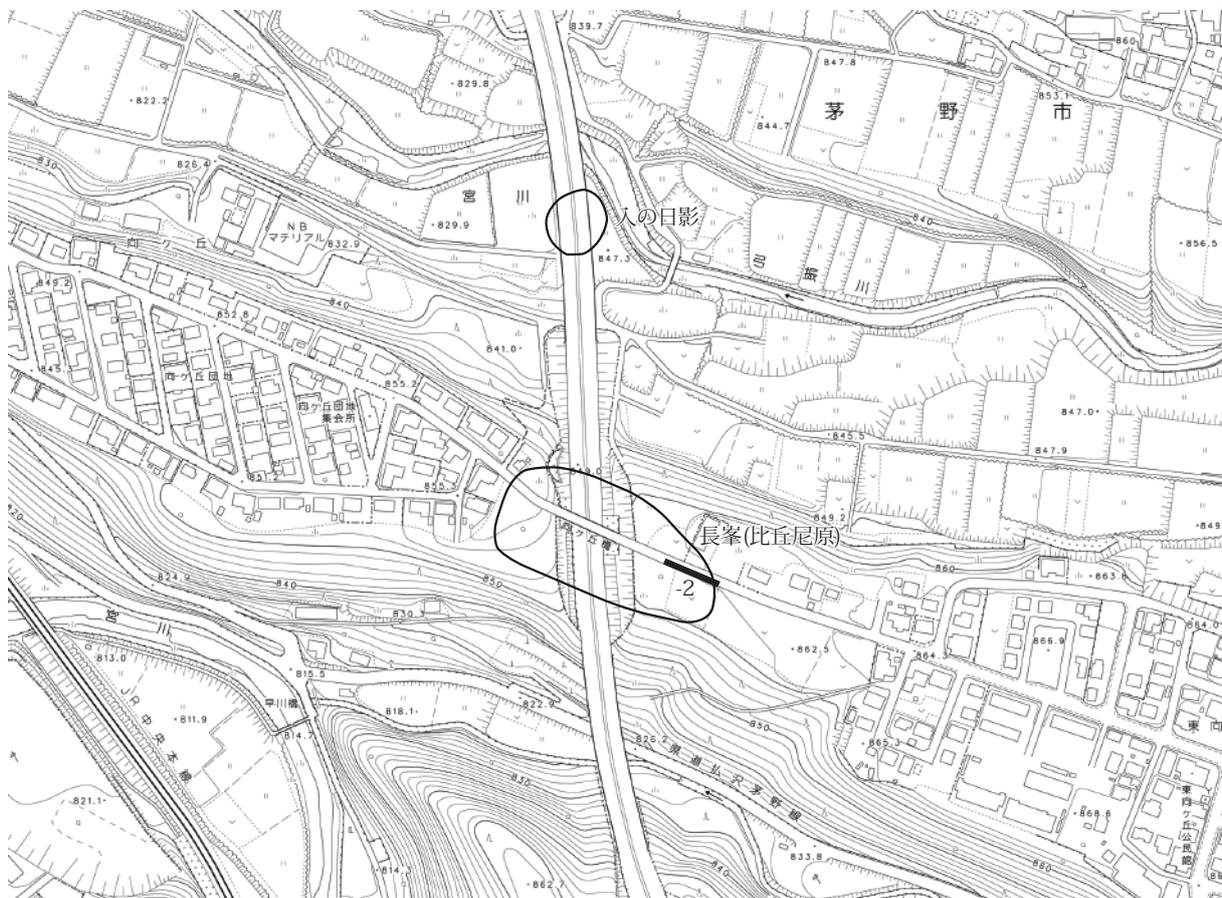
### 1 遺跡の概要

長峰遺跡は小河川に挟まれた台地にあり、昭和40～50年代に県営住宅団地(向ヶ丘団地)の造成と中央自動車道の建設工事が行われている。茅野市史によると「開発前に台地の北斜面を登り切ったところに湧水を伴うくぼ地があり、付近から縄文時代中期の土器片や、打製石斧・石鎌が採集されたという」が、遺跡の実体は不明である。

### 2 調査の概要

通知された工事は、既設の塩ビ製水道管を鋳鉄製のものに替えるものだが、埋設位置を変えて新規に掘削する。水道管埋設の深さは現況から約1mで、幅は60cmである。掘削深度は深いものの、幅は狭いため、保護措置は工事立会とした。

立会の結果、道路建設により遺物包含層や遺構があったとしても、すでに削平されていると考えられた。遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



第24図 長峰(比丘尼原)遺跡調査地点図(1/5,000)

## 11 小堂見遺跡

遺跡番号 160-21

所在地 茅野市玉川字細畑 3078-1

調査原因 個人住宅建築

調査期間 令和2年11月24日

対象面積 330㎡

遺構 なし

遺物 なし

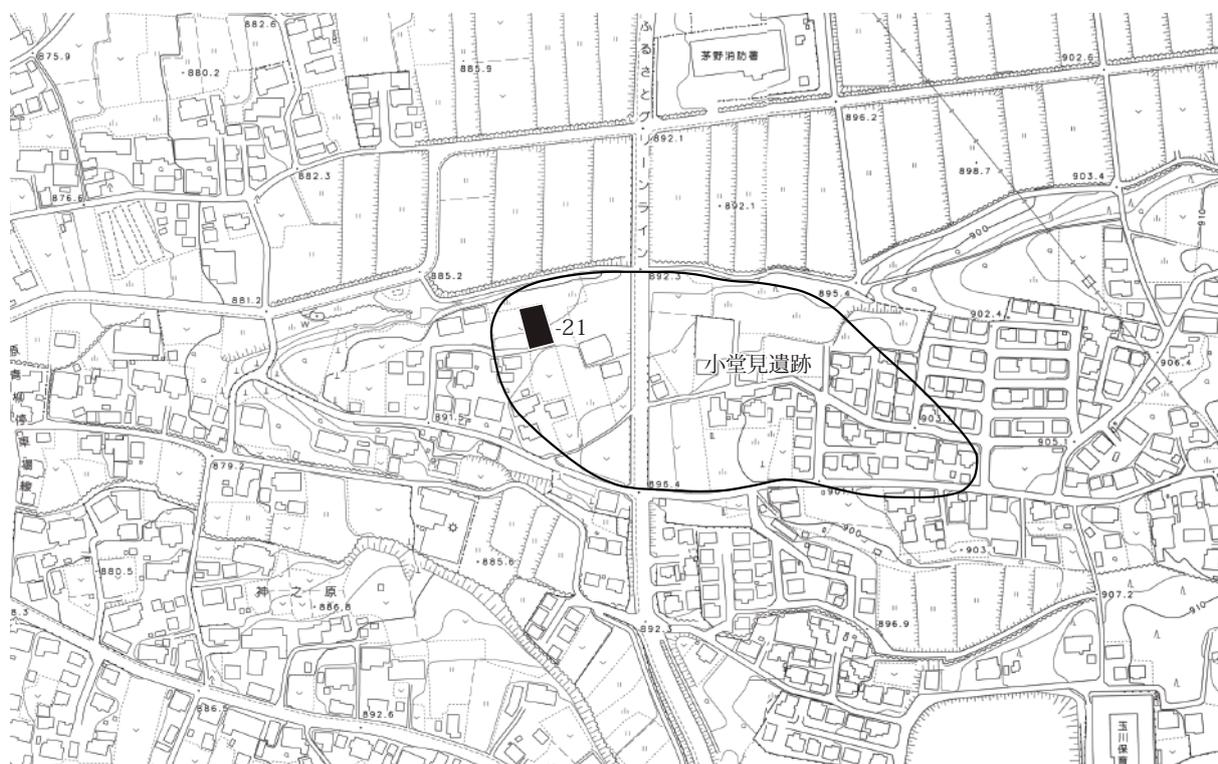
### 1 遺跡の概要

小堂見遺跡は八ヶ岳山麓の東西に延びる痩せ尾根状の台地に立地する。平成3年に遺跡範囲東側の台地平坦面で宅地造成に伴う試掘調査が行われ、平安時代の竪穴住居址3軒と土坑（落とし穴）1基が確認された。その後、平成7年に行われた農道建設工事に伴う発掘調査では、縄文時代中期初頭の竪穴住居址1軒と土坑17基が、台地の北側斜面から検出された。その後、個人住宅建設等による小規模な調査が数カ所で行われており、縄文時代の遺構・遺物が発見されている。また、平成19年に店舗及び医療施設建築工事に伴って発掘調査を実施した地点の西隣に位置している。平成30年4月に行われた宅地造成の際に、試掘調査を行っているが、遺構の検出や遺物の出土のなかった個所である。しかし、隣接地で遺構や遺物が発見されていることから、宅地造成後も個別の住宅建設の際にはすべて立会を行っている。

### 2 調査の概要

今回届出された工事は、個人住宅建築工事である。平成30年に宅地造成された一角で、北向きに傾斜している敷地で、ほとんどが盛土となる。基礎工事では4から4.5mの柱状改良ののち外周部を深さ40cm、内部を深さ13cmで掘削する。

立会の結果、基礎工事はすべて盛土の中で掘削が行われており、遺構の検出や遺物の出土はなかった。



第25図 小堂見遺跡調査地点図(1/5,000)

## 12 藤塚遺跡

遺跡番号 162-32

所在地 茅野市玉川 3629-7

調査原因 個人住宅建築

調査期間 令和2年11月12日

調査面積 208-12㎡

遺構 近代土坑2、溝状遺構1

遺物 縄文土器・黒曜石

### 1 遺跡の概要

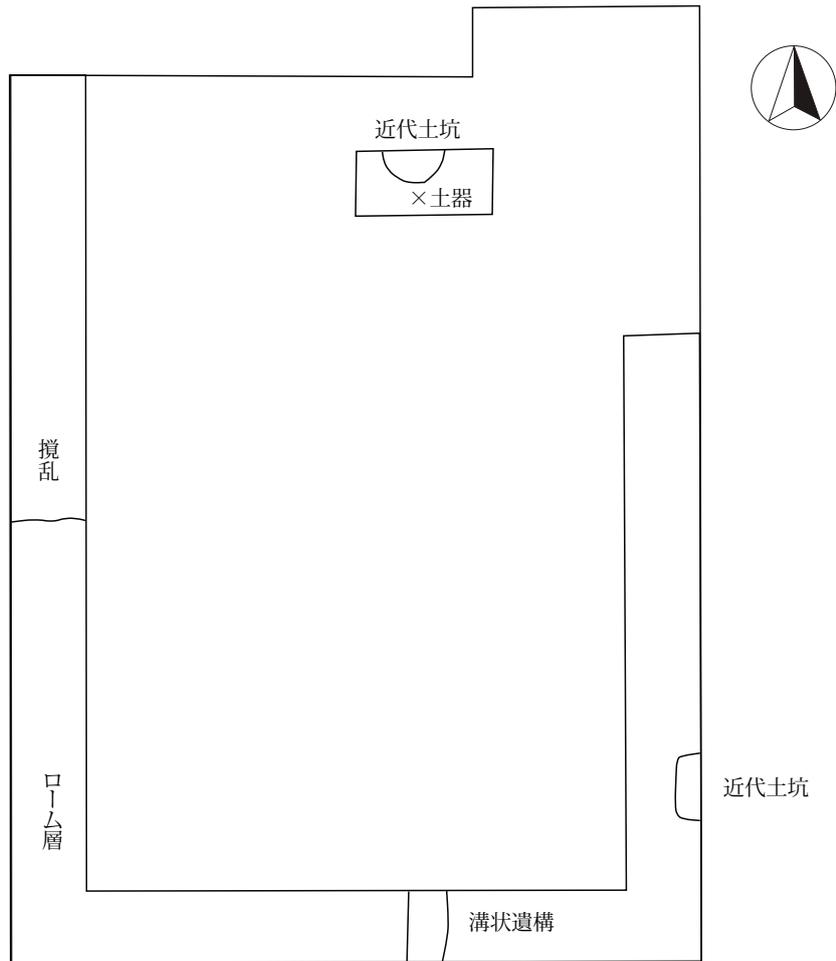
藤塚遺跡は大小の発掘調査によって縄文時代中期・後期の遺跡であることが判明している。また住居址等の検出状況から環状集落を形成する規模の大きい遺跡と考えられるが、部分的な調査のみのため、遺跡の全体像や性格はわかっていない。

### 2 調査の概要

今回届出された工事は、個人住宅建築工事に伴うものである。基礎工事については建物外周・内周部を布掘りで幅約60cm、深さ60cmで掘削し、内側は25cmの鋤取をおこなう計画である。計画地は遺跡の周縁部に位置するものの、計画地西側の住宅地における個人住宅建設工事に際しては、縄文時代中期の住居址が多数検出されており、本計画地にまで集落が続いている可能性も考えられる。そこで、計画地には遺構の存在する可能性があるため、試掘調査を行うこととし、その結果を以て事業者と保護措置を協議することにした。



第26図 藤塚遺跡調査地点図(1/5,000)



第 27 図 藤塚遺跡調査範囲図 (1/100)

調査の結果、近代の土坑 2 基、時期不明の溝状遺構 1 条が検出されたほか、縄文土器片、溝状遺構内から黒曜石片が 1 点出土したが、掘削深度が遺構確認面より深くならないため、記録にとどめるだけで、遺構の掘り下げは行わなかった。



図版 55 掘削状況 1



図版 56 掘削状況 2

## 13 中沢遺跡

遺跡番号 165-4

所在地 茅野市玉川 10249、10246-3

調査原因 太陽光発電施設設置

調査期間 令和2年5月6日

対象面積 1,132㎡

遺構 なし

遺物 表採で縄文土器・黒曜石

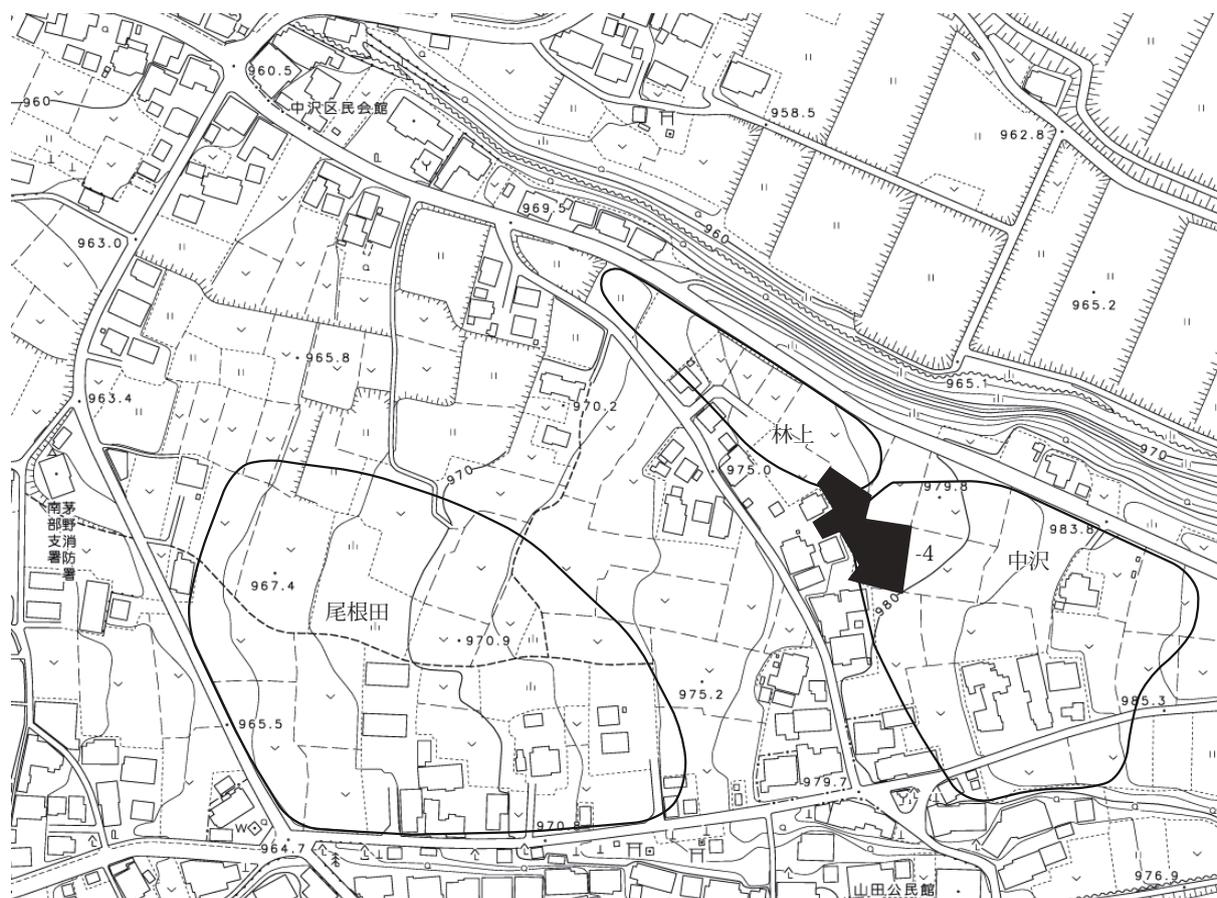
### 1 遺跡の概要

中沢遺跡はハケ岳山麓に位置し、柳川溪谷に沿う広原状台地に立地している。標高は980mである。耕作により縄文時代中期中葉から末葉までの土器が採集されているが、未発掘の遺跡である。近年、遺跡北西で行った平成19年の宅地造成工事に伴う発掘調査で縄文時代早期の陥し穴や土坑、近世以降の溝址が発見され、縄文時代中期を主体とする中沢遺跡とは別の遺跡として新たに林上遺跡として分離された。また、本遺跡の西には尾根田遺跡がある。

### 2 調査の概要

今回届出された工事は、太陽光発電施設建設工事である。工事は太陽光パネル4基を設置するもので、敷地の造成等を行わず、パネルは一つにつき直径20cm、深さ140cmほどの支柱8本により固定する。このように本工事にともなう掘削は狭窄であることから、今回の工事についての保護措置は工事立会とした。

工事着工に際して、設置される畑で縄文土器・黒曜石が表採された。



第28図 中沢遺跡調査地点図(1/5,000)

## 14 鬼場城跡

遺跡番号 217-2  
所在地 茅野市米沢城山 450-1  
調査原因 歩道設置  
調査期間 令和2年12月7日  
対象面積 520㎡  
遺構 なし  
遺物 なし

### 1 遺跡の概要

鬼場城跡は中世の山城であり平成9・10年に県単道路改良事業に伴い東南側の発掘調査を実施し、中世城郭の虎口、廓が見つかった。周囲には土佐屋敷遺跡(218)が鬼場城跡の南麓に位置し、国道152号を挟んで御座石神社遺跡(219)が位置している。「土佐屋敷」の地名は、鬼場城城主の日常の館とみる説があり、同遺跡からは昭和17年頃に奈良時代末～平安時代初期とみられる立鼓柄太刀が発見されている。平成10年度には国道152号線の改良工事に伴い発掘調査が実施され、土坑16基・埋甕炉1基の他、縄文・中世の遺物が発見されている。

### 2 調査の概要

今回届出された工事は県道192号線の歩道橋脚の建設工事である。計画地は県道が市道上を立体的に交差する地点であり、県道沿いに伸びてくる歩道が途中で県道から離れ、市道を跨ぐ形で向かい側の鬼場城の位置する城山山腹に伸びず工事である。鬼場城の城郭施設は主に山頂付近にあり、裾部での城郭遺構の検出の可能性は低いと考えられることから、遺跡地図上では遺跡範囲外となっている。しかし、山城に付帯する遺構が分布する可能性もあることから、試掘調査をおこない、その結果を以て保護措置を講じることとした。



第29図 鬼場城跡調査地点図(1/5,000)



図版 57 掘削前(北から)



図版 58 掘削風景(南から)



図版 59 土層断面(南から)



図版 60 掘削状態(北から)

当初は独自に試掘調査を行う予定であったが、市道を通行止めにするような大掛かりな調査が必要であることから、工事の際に立ち会い、こちらの指示で指定個所の掘削を行うこととした。

斜面は急峻で、途中の黒色土中を観察しても、主郭に登るような登坂路を確認することはできなかった。このため、この南斜面には、鬼場城を形成する施設がないものと判断し、調査を終了した。

## 15 構井・阿弥陀堂遺跡

遺跡番号 223・222-45

所在地 茅野市塚原1丁目14番7号

調査原因 個人住宅建築

調査期間 令和3年3月24日

対象面積 176㎡

遺構 なし

遺物 なし

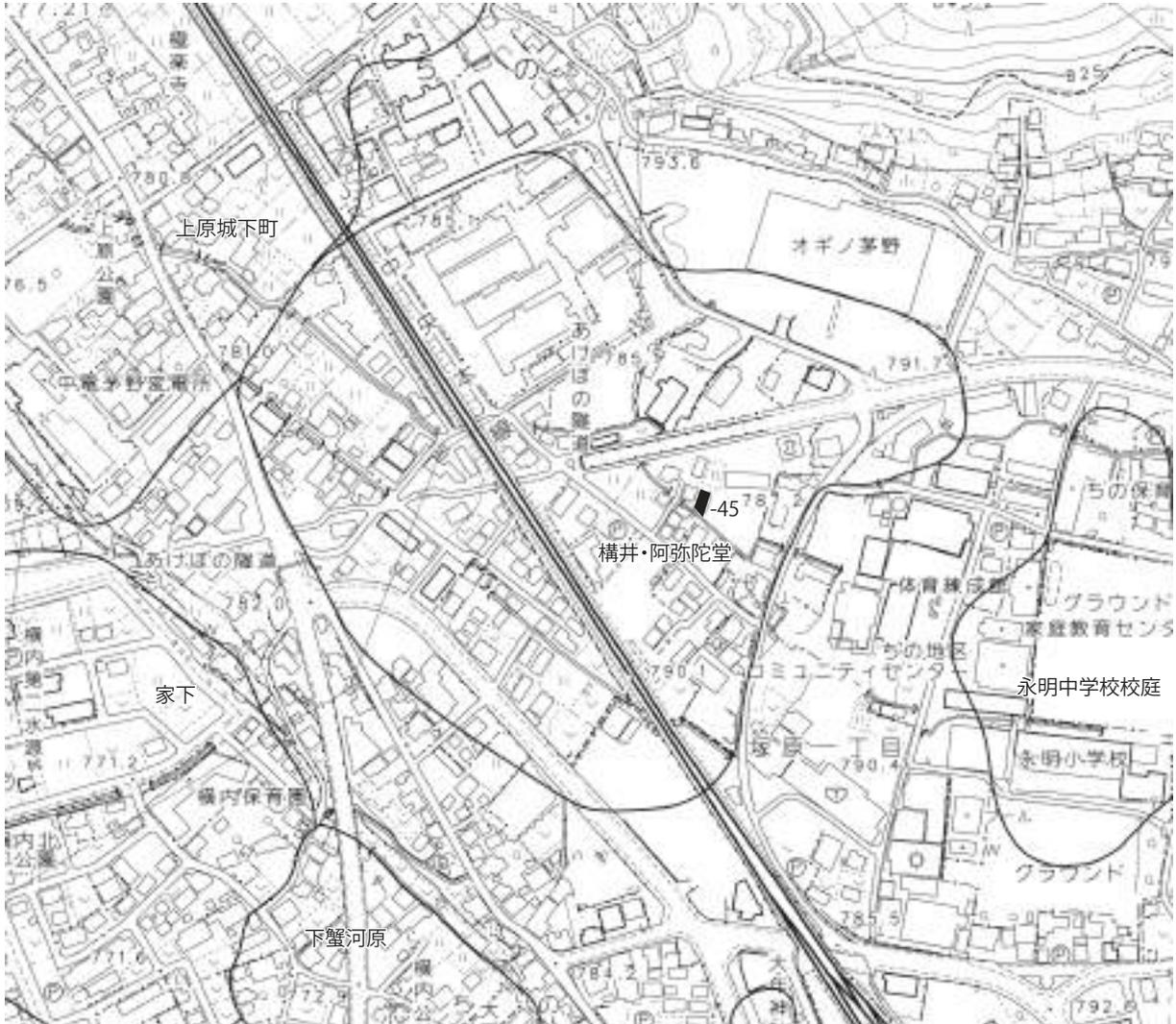
### 1 遺跡の概要

構井・阿弥陀堂遺跡は永明寺山の南裾、上川が形成した沖積段丘面に位置し、JR中央東線の東西に広がる縄文時代から中世まで継続する集落遺跡である。昭和57年の茅野有料道路建設工事をはじめとする、大小の発掘調査によって、遺跡の実態が徐々に解明されている。かつて構井遺跡と阿弥陀堂遺跡に分けて登録してあったが、それぞれ調査を繰り返す中で、お互いの範囲が拡張されていき、現在では一つの遺跡として認識されている。

平成17・18年に長野県埋蔵文化財センターによって実施された県道大年線建設に伴う発掘調査では、縄文時代から平安時代にかけての住居址や掘立柱建物址が検出されている。

## 2 調査の概要

今回届出された工事は、個人住宅の建て替え工事によるものである。外周の布基礎は60cm掘り下げるものであったが、地表から45cmほどは水田耕土上に盛土されたもので、その下層に水田耕土15cm、床土10cmとなり、掘削がこの中に収まることから、これ以下に遺構があったとしても保護されることから、立会を終了した。



第30図 構井・阿弥陀堂遺跡調査地点図(1/5,000)



図版 61 掘削状況(南から)



図版 62 掘削状況(南から)

## 16 上原城下町遺跡

遺跡概要は 11 頁参照。調査地点図は第 9 図参照。

遺跡番号 224-251

所在地 茅野市ちの大字大町 900-イの一部

調査原因 上下水道管の埋設、宅地造成に伴う敷地境界部への擁壁埋設

調査期間 令和 2 年 4 月 10 日

対象面積 281.65㎡

遺 構 なし

遺 物 なし



図版 63 掘削状況（南から）



図版 64 掘削状況（東から）

遺跡番号 224-259

所在地 茅野市ちの大字片羽 700、7001-1、702-2

調査原因 宅地造成

調査期間 令和 2 年 4 月 30 日

対象面積 1095.07㎡

遺 構 なし

遺 物 なし



図版 65 掘削状況（南から）



図版 66 掘削状況（南から）

### 1 調査の概要

今回届出された工事は、宅地造成工事によるものである。削平と盛土により水田として利用されており、造成がこの中に収まることから、これ以下に遺構があったとしても保護されることから、立会を終了した。

遺跡番号 224-263  
所在地 茅野市ちの大字大町 900-5・6  
調査原因 個人住宅建築  
調査期間 令和2年7月7日  
対象面積 271.26㎡  
遺構 なし  
遺物 なし



図版 67 掘削状況（南から）



図版 68 掘削状況（北から）

## 2 調査の概要

個人住宅の基礎工事の立会。前述の 224-259 と同じ敷地。60cmの掘り下げのうち、30cmの水田耕土の下に床土があり、その下は礫混じりのローム。遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。

遺跡番号 224-266  
所在地 茅野市ちの大字大町 786-2  
調査原因 個人住宅建築  
調査期間 令和2年9月28日  
対象面積 278.346㎡  
遺構 なし  
遺物 なし



図版 69 掘削状況（北東から）



図版 70 掘削状況（南から）

## 3 調査の概要

個人住宅の基礎工事の立会。盛り土内での掘削で、遺構に影響はないと判断し、終了する。

遺跡番号 224-268  
所在地 茅野市ちの字原田 1051,1052-1  
調査原因 個人住宅建築  
調査期間 令和3年1月21日  
対象面積 380.81㎡  
遺構 なし  
遺物 なし



図版 71 掘削状況（南から）



図版 72 掘削状況（西から）

#### 4 調査の概要

個人住宅の基礎工事の立会。盛り土内での掘削で、遺構に影響はないと判断し、終了する。

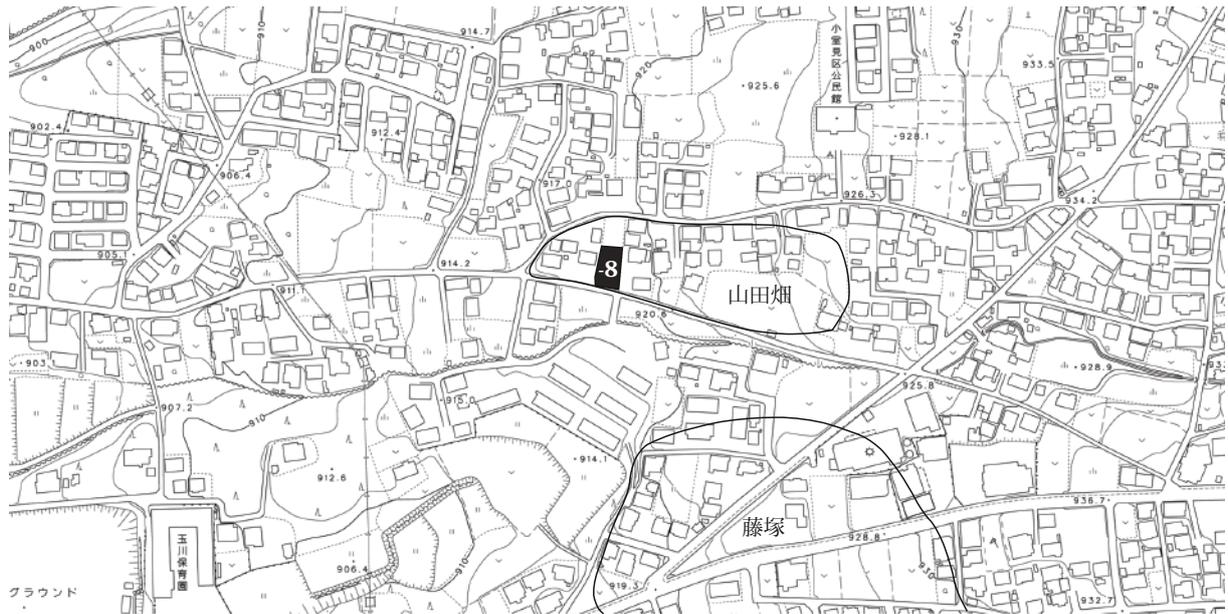
## 17 山田畑遺跡

遺跡番号 245-8  
所在地 茅野市玉川 3338-7  
調査原因 個人住宅建築  
調査期間 令和2年10月5日  
対象面積 332.78㎡  
遺構 なし  
遺物 縄文土器5点

#### 1 遺跡の概要

山田畑遺跡の発掘調査履歴は乏しいが、平成13年の道路工事にともなう発掘調査では、長さ約60m、幅約2.5mの約150㎡の範囲から、縄文時代中期後半以降とみられる29基の土坑が検出された。土坑には硬玉製垂飾や大形土器片が出土したものや、土層断面で黒(褐)色土の垂下層が確認できるものがある。前者は墓坑、後者は柱穴(方形柱穴列の可能性あり)とみられる。また、黒曜石の剥・碎片を廃棄したとみられる土坑が1基ある。竪穴住居址の検出こそなかったが、硬玉製垂飾をもつムラであることはその時期と性格を考える上で重要である。幅のある台地に立地し、土器、石器が多く拾える箇所もあることから、谷をはさみ南に位置する藤塚遺跡と並ぶ大集落の可能性はある。

昨年、同地で宅地造成が計画され、擁壁の埋設工事にともない試掘調査を行っている。試掘調査は、計画地の北、西面、中央東西方向に幅約1mでトレンチを設定した。北トレンチでは、地表から約70～80cmほどの深さで、土坑、北西付近で住居址を検出している。そこで事業者と協議を行い、設計変更を行うことで、地表から約60cmまでの掘削と遺構が保護されることとなった。中央トレンチでは、地表から約60cmの深さで後期前半の土器片が出土したが、掘削は黒土層内にとどまり、遺構も検出されていない。検出した遺構のうち、住居址は



第 31 図 山田畑遺跡調査地点図 (1/5,000)

縄文時代中期後半のもので、土坑は中期中葉のものであるが、掘削が検出面より深くならないことから、掘り下げを行っていない。

出土遺物には縄文時代中期中葉から後半、後期前半のものまで含まれ、遺跡が長期にわたって営まれていたことが確認できる。

## 2 調査の概要

今回の個人住宅建築は、昨年度造成した 2 区画のうちの南側である。昨年度の擁壁部分の調査では、北側で縄文時代の遺構が検出されたものの、南側は縄文土器の出土はあったものの、遺構の検出はなかった。しかし、遺構の検出が十分見込まれる場所であることから、住宅の基礎部分の立会を行い、遺構が検出された時点で発掘調査に切り替えることとした。

調査は、幅 1 m の布基礎部分の掘削を、遺構検出面であるルーム面で止めてもらい、遺構の有無を確認した。調査の結果、縄文土器の出土は見られたものの、遺構の検出はなかったため、調査を終了した。



図版 73 掘削状況 (東から)



図版 74 掘削状況 (南から)

## 18 荒玉社周辺遺跡

遺跡番号 319-24

所在地 茅野市宮川字姫宮 1292-2、1292-1 と 1292-3 の一部

調査原因 個人住宅建築

調査期間 令和2年4月27日

対象面積 338.83㎡

遺構 なし

遺物 なし

### 1 遺跡の概要

荒玉社周辺遺跡は土地区画整理事業・個人住宅建築工事などに伴い発掘調査が行われ、遺跡の実態が徐々に明らかにされている。遺跡の時代は縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世と各時代が確認されているが、遺跡を特徴づけるのは諏訪上社周辺に営まれた中世都市としての性格である。

### 2 調査の概要

今回届け出された工事は、個人住宅建設工事である。基礎は3mの柱状改良を行った後、基礎外周部を深さ61cm、幅約50～60cm、内部は深さ20cmで掘削するものである。以上から本工事にともなう掘削範囲は狭く、かつ計画地が遺跡の周縁部に位置し、遺構の分布が薄いとみられることから、遺跡の保護措置は工事立会とした。

立会の結果、掘削は盛土の範囲内にとどまり、遺構の検出や遺物の出土はなかった。



第32図 荒玉社周辺遺跡調査地点図 (1/5,000)



図版 75 掘削状況（南から）



図版 76 掘削状況（北から）

# 報告書抄録

ふりがな	しないいせきじゅうご					
書名	市内遺跡15					
副書名	令和2年度 埋蔵文化財発掘調査報告書					
巻次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	堀川洸太郎・小林深志・鶴飼幸雄					
編集機関	茅野市教育委員会					
所在地	〒391-8501 長野県茅野市塚原二丁目6番地1号 Tel0266-72-2101					
発行年月日	西暦2021年1月31日					
ふりがな 遺跡名	所在地	市町村コード	調査期間	調査面積 対象面積 (㎡)	調査原因	発見遺構
		遺跡番号				発見遺物
たてしな 蓼科	茅野市北山 4035-17他	20214	令和3年3月22日	85	ホテル建設	なし
		4月2日				なし
ひなたうえ 日向土	茅野市豊平5593-1他	20214	令和2年11月15日	49 1,200	宅地造成	なし
		Dec-74				なし
だいえつみなみ 大悦南	茅野市宮川9700-3	20214	令和2年6月23日～ 24日	90 2,974.1	工場建設	なし
		182-7				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの字大町 803-7	20214	令和2年5月7日～ 12日	80 879	宅地造成	古墳～平安住居址7、土坑 黒曜石、古墳土師器、平安 土師器、須恵器、灰釉陶 器、中世陶器、鉄製品
		224-257				
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの字播磨小路 1334-3,1334-4	20214	令和2年6月1日	36 305	集合住宅建築	小竪穴1 平安土師器・須恵器・灰釉 陶器・中世陶磁器等コンテ ナ1/2箱
		224-260				
いけのだいら 池ノ平	茅野市北山3419-2	20214	令和2年10月5日～ 6日	35 6,790	公園造成	なし
		307-1				黒曜石8点、中世内耳土器1 点
やまでら 山寺	茅野市豊平宮ノ前 3140,3141	20214	令和2年5月8日	512	太陽光発電シス テム	なし
		71-23				なし
むかいはら 向原	茅野市豊平2472-2	20214	令和2年12月4日	80	宅地造成	なし
		79-15				なし
むかいはら 向原	茅野市豊平2398-1 2399	20214	令和3年1月15日	1,603	太陽光発電施設	なし
		79-16				なし
しんみずかけえー 新水掛A	茅野市豊平784-2	20214	令和2年11月16日	8	水道配水管施設 減圧弁設置	なし
		Jun-89				なし
いっぼんざわら 一本椹	茅野市塚原2丁目6-1	20214	令和2年5月27日～ 6月14日	2,010	公園墓地整備	なし
		107-9				なし
いえした 家下	茅野市ちの字家下 2573-1	20214	令和2年5月27日	67.44	個人住宅建築	なし
		110-70				なし
たかべ 高部	茅野市宮川270-1	20214	令和2年7月20日	196	事務所建設	なし
		123-15				なし
まえみや 前宮	茅野市宮川2040	20214	令和2年12月18日	96	照明・電気設備 設置工事	なし
		129-29				なし
こがいどおり 小飼通	茅野市宮川字小飼通 3050-4	20214	令和2年9月8日	5	個人住宅建築	なし
		134-6				なし

なかむら 中村	茅野市宮川6056-11	20214	令和元年9月17日	1.62	個人住宅建築	なし
		323-11				なし
ながみね(びくにっばら) 長峰(比丘尼原)	茅野市宮川7459-1 から7619-2	20214	令和2年5月29日 6月1日	8	水道管敷設変え	なし
		149-2				なし
こどうみ 小堂見	茅野市玉川字細畑 3078-1	20214	令和2年11月24日	330	個人住宅建築	なし
		160-21				なし
ふじづか 藤塚	茅野市玉川3629-7	20214	令和2年11月12日	208.12	個人住宅増築	近世土坑2、溝状遺構1
		162-32				縄文土器、黒曜石
なかっさわ 中沢	茅野市玉川10249 10246-3	20214	令和2年5月6日	1,132	太陽光発電施設	なし
		165-4				表探で縄文土器・黒曜石
おにぼじょうせき 鬼場城跡	茅野市米沢城山 450-1	20214	令和2年12月7日	520	歩道設置	なし
		217-2				なし
かまい・あみだどう 構井・阿弥陀堂	茅野市塚原1-14-7	20214	令和3年3月24日	176	個人住宅建築	なし
		222・223-45				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの大字大町 900-イの一部	20214	令和2年4月10日	281.65	個人住宅擁壁	なし
		224-251				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの大字片羽 700、700-1、702-2	20214	令和2年4月30日	1,095.07	宅地造成	なし
		224-259				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの大字大町 900-5・6	20214	令和2年7月7日	271.26	個人住宅建築	なし
		224-263				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの字大町 786-2	20214	令和2年9月28日	278.346	個人住宅建築	なし
		224-266				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの字原田 1051、1052-1	20214	令和3年1月21日	380.81	個人住宅建築	なし
		224-268				なし
やまだばたけ 山田畑	茅野市玉川3338-7	20214	令和2年10月5日	332.78	個人住宅建築	なし
		245-8				縄文土器5点
あらたましやしゅうへん 荒玉社周辺	茅野市宮川字姫宮 1292-2他	20214	令和2年4月27日	338.83	個人住宅建築	なし
		319-24				なし

---

---

## 市内遺跡 15

—令和2年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

令和4年1月31日 印刷

令和4年1月31日 発行

編集 茅野市教育委員会

発行 長野県茅野市塚原二丁目6番1号（0266）72－2101(代)

印刷 伸和産業株式会社

長野県茅野市中大塩17番地33

---

---









